

裕軒日抄

墨

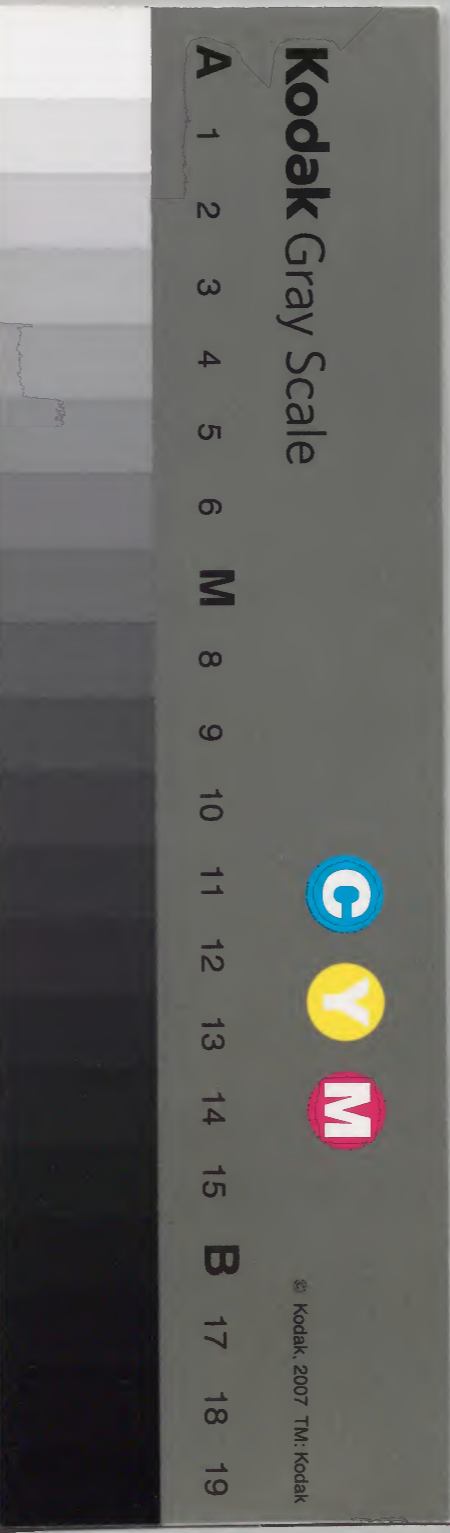
詔

太政官文庫			
三	二	二	和
二	二	二	書
四	二	二	門
三	九	五	類
冊	架	函	號

内閣文庫			
一	三	和	
五	三	書	
〇	二		
函	一		
一	四		
九	三		
架	冊		
	號		

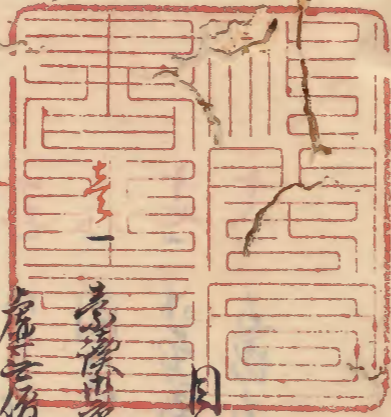
内閣文庫	
番號	和 32217
冊數	43( 4)
函號	150 130

共四十三



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり  
裏面記載のない箇所は省略





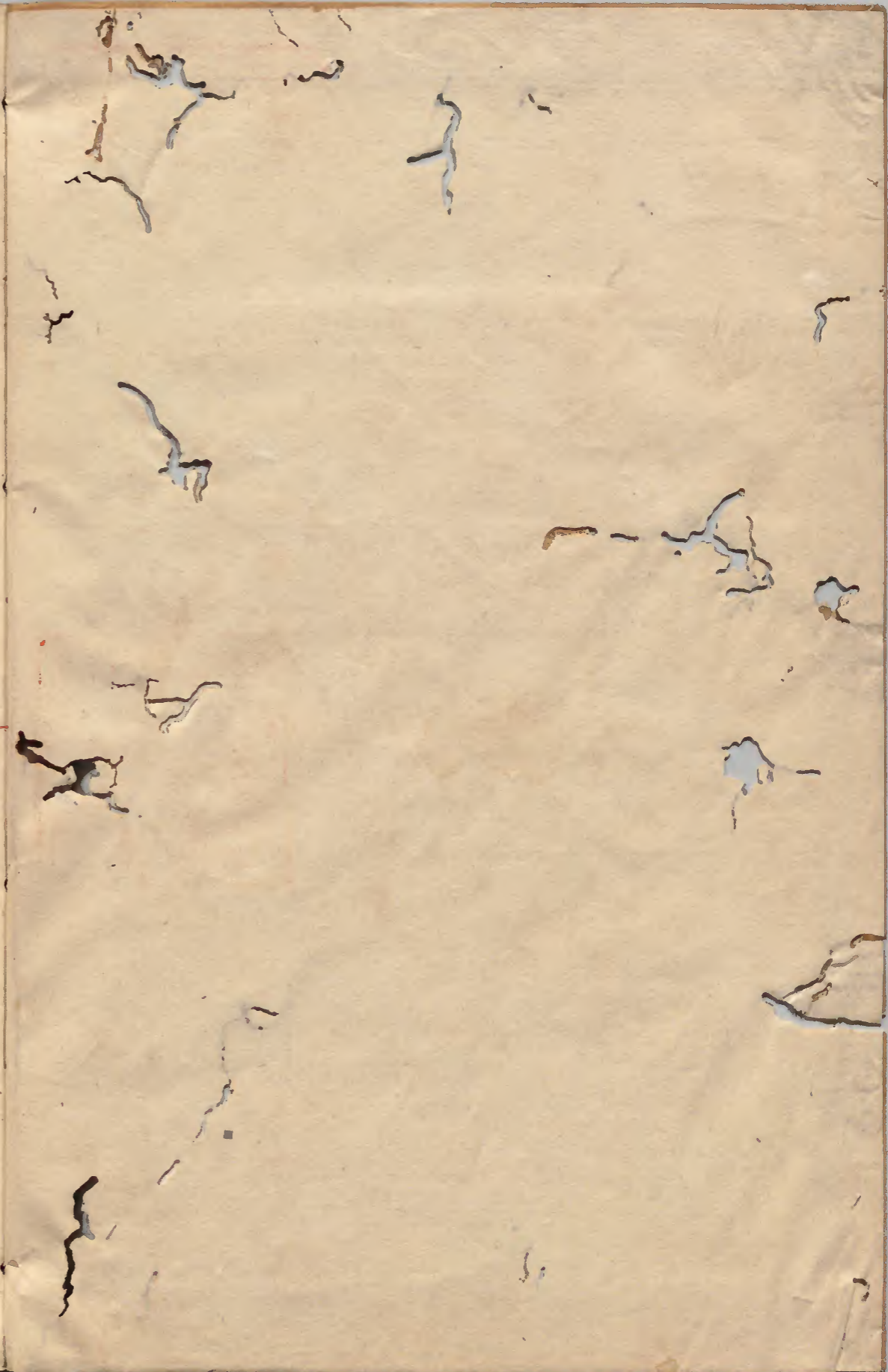
目錄

- 一 卷一 禮記卷一 冠義
- 二 卷二 禮記卷二 士冠禮
- 三 卷三 禮記卷三 士昏禮
- 四 卷四 禮記卷四 士相見
- 五 卷五 禮記卷五 士食禮
- 六 卷六 禮記卷六 士飲酒
- 七 卷七 禮記卷七 士喪禮



目錄

- 一 卷八 禮記卷八 士有食飲
- 二 卷九 禮記卷九 士有居處
- 三 卷十 禮記卷十 士有衣服
- 四 卷十一 禮記卷十一 士有容儀
- 五 卷十二 禮記卷十二 士有言談
- 六 卷十三 禮記卷十三 士有禮節
- 七 卷十四 禮記卷十四 士有威儀
- 八 卷十五 禮記卷十五 士有容止
- 九 卷十六 禮記卷十六 士有容色
- 十 卷十七 禮記卷十七 士有容聲





八 出火之序女門通方之事  
 九 出火之序女門通方之事  
 十 出火之序女門通方之事  
 十一 出火之序女門通方之事  
 十二 出火之序女門通方之事  
 十三 出火之序女門通方之事  
 十四 出火之序女門通方之事  
 十五 出火之序女門通方之事  
 十六 出火之序女門通方之事  
 十七 出火之序女門通方之事  
 十八 出火之序女門通方之事

十一 出火之序女門通方之事  
 十二 出火之序女門通方之事  
 十三 出火之序女門通方之事  
 十四 出火之序女門通方之事  
 十五 出火之序女門通方之事  
 十六 出火之序女門通方之事  
 十七 出火之序女門通方之事  
 十八 出火之序女門通方之事  
 十九 出火之序女門通方之事  
 二十 出火之序女門通方之事



三



宗室中務卿 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

一 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

一 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

一 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

一 尚人 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

一 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

一 父 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

一 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

一 他 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

一 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

一 若年 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

三

大伴 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

一 月 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

一 地 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

一 水 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

一 抱 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

一 口 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

一 片 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

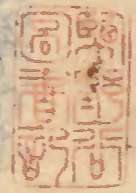
一 打 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

一 若 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

一 後 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

一 諸 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣

一 所 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣 藤原朝臣





一 為人の中身若年若年西九月廿二日

他世後目付中身若年若年西九月廿二日

一 父世礼中身若年若年西九月廿二日

他西九月廿二日若年若年西九月廿二日

一 並書外中身若年若年西九月廿二日

先年控江村屋敷に宿之家内所寄  
味之旨妙心之奇社所奉り物

二

上書封字

一 京都六條中身若年若年西九月廿二日  
一 虚蓋山明暗も之礼虚竹作士に中身若年若年西九月廿二日  
一 臣士之或財途中之若年若年西九月廿二日  
一 細網務の若年若年西九月廿二日  
一 中身若年若年西九月廿二日  
一 在擲之法法又初寄是也并次不普  
一 化於降の二則を以て之若年若年西九月廿二日  
一 時を以て八を成有様也若年若年西九月廿二日  
一 今利之時の八は子を移し度と云  
一 又若化様師が不致を移し度と云  
一 虚二房是を八は又代り成子を  
一 虚若より不是なり若年若年西九月廿二日

一切出—二股の事

一 指し—の事

一 月ひ市心の子

一 読むけひ—の事

一 右極之除

一 右極之除

一 右極之除

一 右極之除

一 右極之除

一 右極之除

一 右極之除

一 右極之除

一 右極之除

一 右極之除

一 右極之除

一 右極之除

三

着具次第

一 早着之事

早着とて之分早き若年若年西九月廿二日

一 右極之除

一 右極之除

一 右極之除

一 右極之除

一 右極之除

一 右極之除

一 右極之除

一 右極之除

一 右極之除



定例として、子孫の定例の  
一列を記す。

一 本朝虚之儀の之祀奉養、虚行、虚之  
傍の一派を建てる、虚行、遷化、後日、  
固く祀る、家、二百年、中絶、天、  
明、多、世、山、陳、回、弟、三、修、通、白、川、  
宗、宅、と、山、河、之、の、七、祀、を、つ、り、北、南、  
北、虚、之、傍、の、祀、を、改、む。

初祀、春、露、虚、行、二、代、目、明、音

三、代、目、之、心、外、四、代、露、身

五、代、目、鐵、道、六、代、目、羅、風

七、代、目、剛、月、了、事

一 生、後、剛、月、了、事、進、行、門、後、居、但、之、初、火

災、より、住、宅、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 災、事、中、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 了、事、令、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 建、立、及、八、代、目、山、河、在、自、王、堂、智、照

一 虚、之、傍、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 先、列、由、長、後、回、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 二、上、日、本、の、風、俗、を、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 一、虚、之、傍、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 有、事、及、知、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 未、定、也

一 虚、之、傍、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 水、身、二、心、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 礼、奉、養、後、失、火、時、

一 中、水、身、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 明、澄、名、換、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 上、帝、名、換、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 後、大、小、換、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 一、部、名、換、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 小、子、換、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 名、用、之、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 表、之、方、武、老、換、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 禮、奉、養、後、失、火、時、

一 戦、場、礼、法

一 一、介、者、を、不、持、と、稱、す、又、あ、り、残、物、を、

一 礼、儀、之、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 一、立、之、を、礼、甲、之、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 一、立、之、を、礼、甲、之、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 足、を、踏、と、稱、す、片、膝、を、下、

一 君、前、坐、人、對、坐、を、禮、甲、之、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 致、進、形、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 一、立、之、を、礼、甲、之、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 一、立、之、を、礼、甲、之、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 一、立、之、を、礼、甲、之、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 一、立、之、を、礼、甲、之、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 一、立、之、を、礼、甲、之、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 一、立、之、を、礼、甲、之、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、

一 一、立、之、を、礼、甲、之、事、の、祀、奉、養、後、失、火、時、







通し事なき方在り  
 一 何れも大風量地に入りて身を大にまき  
 死す風量地を以て其身に事七修を  
 弟礼を為さるるに及ばざる事あり  
 但し其の事なき事ありは或る事あり  
 一 後にも事通中を修め其方なき事  
 位事なき事あり之を修めたる事  
 一 道中より流し居る事ありは或る事あり  
 不し礼儀の事なき事ありは或る事あり  
 高き事ありは或る事ありは或る事あり  
 右虚言信と事あり好む事ありは或る事あり  
 中野山の上  
 宝永三年戌九月日

宝永三年戌九月日

虚言信法中爰法

- 一 公儀伊勢守及之御座る守事
- 一 準法式あり威儀の事
- 一 扱事の時不可礼事
- 一 非非時と希天の御座る御座る事
- 一 罰下事
- 一 衝逆才子九事停止兼任事
- 一 四時停止事
- 一 守事なき事ありは或る事あり
- 一 會合に遊ばるる事ありは或る事あり
- 一 病外と事ありは或る事あり
- 一 虚言信法中爰法

事なき事ありは或る事あり  
 曲事なき事ありは或る事あり  
 たり事なき事ありは或る事あり  
 川事なき事ありは或る事あり  
 後の大方は或る事あり  
 形事なき事ありは或る事あり  
 なる事なき事ありは或る事あり  
 顔事なき事ありは或る事あり  
 方事なき事ありは或る事あり  
 方事なき事ありは或る事あり  
 胸事なき事ありは或る事あり  
 胸事なき事ありは或る事あり

胸事なき事ありは或る事あり  
 胸事なき事ありは或る事あり  
 胸事なき事ありは或る事あり  
 胸事なき事ありは或る事あり  
 胸事なき事ありは或る事あり  
 胸事なき事ありは或る事あり  
 胸事なき事ありは或る事あり  
 胸事なき事ありは或る事あり  
 胸事なき事ありは或る事あり  
 胸事なき事ありは或る事あり  
 胸事なき事ありは或る事あり  
 胸事なき事ありは或る事あり



一 痲痺之症を治養するに先んじて是を定む  
 了す此系和心之業を定む此種之業  
 一 此の諸事より先んじて  
 一 考合し別酒を造りて飲んず  
 一 此等中酒系を造るは要信止事  
 一 右の諸事より先んじて  
 急度なる曲事  
 一 宣和三年戊寅 明暗寺改任  
 傳  
 一 考合し別酒を造るは要信止事  
 一 此等中酒系を造るは要信止事  
 一 右の諸事より先んじて  
 急度なる曲事

一 同病を治す道ありぬれば此法を企む  
 一 此上の遺傳は此法を定む  
 一 考合し別酒を造るは要信止事  
 一 此等中酒系を造るは要信止事  
 一 右の諸事より先んじて  
 急度なる曲事  
 一 宣和三年戊寅 明暗寺改任  
 傳  
 一 考合し別酒を造るは要信止事  
 一 此等中酒系を造るは要信止事  
 一 右の諸事より先んじて  
 急度なる曲事

已り此系乃ありて先んじて  
 一 考合し別酒を造るは要信止事  
 一 此等中酒系を造るは要信止事  
 一 右の諸事より先んじて  
 急度なる曲事  
 一 宣和三年戊寅 明暗寺改任  
 傳  
 一 考合し別酒を造るは要信止事  
 一 此等中酒系を造るは要信止事  
 一 右の諸事より先んじて  
 急度なる曲事

一 考合し別酒を造るは要信止事  
 一 此等中酒系を造るは要信止事  
 一 右の諸事より先んじて  
 急度なる曲事  
 一 宣和三年戊寅 明暗寺改任  
 傳  
 一 考合し別酒を造るは要信止事  
 一 此等中酒系を造るは要信止事  
 一 右の諸事より先んじて  
 急度なる曲事



- 二葉の井西を交遊するに於ては抑止  
止しし中
- 酒三杯は薄佳とのを不薄を非を交任を  
平射半
- 一葉のまゝ別判形お取に上るは方如  
中安を了具威儀事
- 一葉の山に別判進の留儀を言て抑止は若  
先より附居たまゝに任を平射中
- 一葉の年尚青月かを掃除に心を射下  
を語合し案つお取し事

右の歌はつお取しものや  
室永三年戊申月 内膳宮次臣

本則才子中 一 酒席

- 公儀酒席交遊儀に於ては抑止
- 一葉の和子月 音控御先許中を言  
言つる程遊事
- 一葉の抑止は公比節 衣取事後希衆は案  
自立用中抑止は叙事 六寸の老手又揚  
小刀を以て抑止は交遊の身の上事
- 一葉の抑止
- 一葉の抑止は先と云は儀口薄お取にのりか  
し中 義徳抑止は福控御し水早お取  
に極は叙事希控抑或は希衆を入  
控無抑止し事

一葉のめを言つし一葉の射よ  
交しお取るるに極一の由りは  
一葉の抑止は後者を言つし一葉の射よ  
たのむちを言つし一葉の射よ  
一葉の抑止は言ふに射を言つし一葉の  
たのむちを言つし一葉の射よ  
一葉の抑止は言ふに射を言つし一葉の  
たのむちを言つし一葉の射よ  
一葉の抑止は言ふに射を言つし一葉の  
たのむちを言つし一葉の射よ

一葉の抑止は言ふに射を言つし一葉の  
たのむちを言つし一葉の射よ  
一葉の抑止は言ふに射を言つし一葉の  
たのむちを言つし一葉の射よ  
一葉の抑止は言ふに射を言つし一葉の  
たのむちを言つし一葉の射よ  
一葉の抑止は言ふに射を言つし一葉の  
たのむちを言つし一葉の射よ



- 一 吾州の領地を以て其の領地を以て
- 一 遠征の事
- 一 吾州の領地を以て其の領地を以て
- 一 吾州の領地を以て其の領地を以て
- 一 吾州の領地を以て其の領地を以て
- 一 吾州の領地を以て其の領地を以て
- 一 吾州の領地を以て其の領地を以て
- 一 吾州の領地を以て其の領地を以て
- 一 吾州の領地を以て其の領地を以て
- 一 吾州の領地を以て其の領地を以て

- 一 吾州の領地を以て其の領地を以て
- 一 吾州の領地を以て其の領地を以て
- 一 吾州の領地を以て其の領地を以て
- 一 吾州の領地を以て其の領地を以て
- 一 吾州の領地を以て其の領地を以て
- 一 吾州の領地を以て其の領地を以て
- 一 吾州の領地を以て其の領地を以て
- 一 吾州の領地を以て其の領地を以て
- 一 吾州の領地を以て其の領地を以て
- 一 吾州の領地を以て其の領地を以て

先年従 伊弉諾 伊弉册

吾州の領地を以て其の領地を以て  
 遠征の事  
 吾州の領地を以て其の領地を以て  
 吾州の領地を以て其の領地を以て  
 吾州の領地を以て其の領地を以て  
 吾州の領地を以て其の領地を以て  
 吾州の領地を以て其の領地を以て  
 吾州の領地を以て其の領地を以て  
 吾州の領地を以て其の領地を以て  
 吾州の領地を以て其の領地を以て  
 吾州の領地を以て其の領地を以て

吾州の領地を以て其の領地を以て  
 遠征の事  
 吾州の領地を以て其の領地を以て  
 吾州の領地を以て其の領地を以て  
 吾州の領地を以て其の領地を以て  
 吾州の領地を以て其の領地を以て  
 吾州の領地を以て其の領地を以て  
 吾州の領地を以て其の領地を以て  
 吾州の領地を以て其の領地を以て  
 吾州の領地を以て其の領地を以て  
 吾州の領地を以て其の領地を以て



一 虚を居る者も士流軍人一時に防が  
守後不入と云ふ事不し由人との事

作の如き

一 虚を居る世に平日に四本を置て防が  
るる世生す事

一 固く市止者海軍律軍兵を全  
由事

一 前衛別ありしは抑は万兵に防が  
るる事

一 虚を居る口振る指する守る事  
小口に若し

一 控衛と云ふ根拠するは防が  
軍者成る事

我れと云ふは事

一 虚を居る流軍人防が  
わの成るの世希方を防が  
るる事

一 虚を居る者も士流軍人一時に防が  
守後不入と云ふ事不し由人との事

一 固く市止者海軍律軍兵を全  
由事

一 前衛別ありしは抑は万兵に防が  
るる事

一 虚を居る口振る指する守る事  
小口に若し

右に際しては守る事

かゝる位月を待つは防が

並射する事不し防が

清之下不し防が

全角本初動の時に防が

一 虚を居る世に平日に四本を置て防が  
るる世生す事

一 固く市止者海軍律軍兵を全  
由事

一 前衛別ありしは抑は万兵に防が  
るる事

とらゝの事を生後射る事

一 虚を居る流軍人防が  
わの成るの世希方を防が  
るる事

一 虚を居る者も士流軍人一時に防が  
守後不入と云ふ事不し由人との事

一 固く市止者海軍律軍兵を全  
由事

一 前衛別ありしは抑は万兵に防が  
るる事

一 虚を居る口振る指する守る事  
小口に若し

右に際しては守る事



室町二年 寺社 奉行  
戊午二月日

月晴寺

諸國虚無僧院跡

中務省御所跡全山 一月寺

南河内河内郡桑原

因吉内郡赤船橋 赤月山 淺山寺

赤山双赤山堂柳の末 赤木山 西向寺

赤木山

武別赤木川赤木 赤木山 西向寺

赤木山 清原寺

因吉内郡赤船橋 赤月山 浅山寺

因吉内郡赤船橋 赤月山 浅山寺

因吉内郡赤船橋 赤月山 浅山寺

因吉内郡赤船橋 赤月山 浅山寺

因吉内郡赤船橋 赤月山 浅山寺

因吉内郡赤船橋 赤月山 浅山寺

因吉内郡赤船橋 赤月山 浅山寺

因吉内郡赤船橋 赤月山 浅山寺

因吉内郡赤船橋 赤月山 浅山寺

因吉内郡赤船橋 赤月山 浅山寺

因吉内郡赤船橋 赤月山 浅山寺

因吉内郡赤船橋 赤月山 浅山寺

因吉内郡赤船橋 赤月山 浅山寺

因吉内郡赤船橋 赤月山 浅山寺

因吉内郡赤船橋 赤月山 浅山寺

因吉内郡赤船橋 赤月山 浅山寺

因吉内郡赤船橋 赤月山 浅山寺

因吉内郡赤船橋 赤月山 浅山寺

許す可きをなむをのり  
中道のちりありぬを言まを  
たりの語をい何れかそを  
人の道子に傳へて方をし  
その人にとりて語あり  
夫の語を能く教へて  
きり村の人を名をを  
和古丹に下矣村むす四ツ  
あつかきを言と村は後  
弦柳子ちのむす  
あつてはめふる夫の  
大兵を生きあつて  
よりて小兵に村の

不慮なりた村の  
虎口と名まはし  
定流の矢を流る  
おけのち村の  
傳るよ合意の  
大軍をさす  
旅人本ふる  
通して村の  
長年を流  
あつてはめふる  
大軍をさす  
あつてはめふる  
あつてはめふる

稻熟流

武別赤船橋赤船橋 赤月山 浅山寺

武別赤船橋赤船橋 赤月山 浅山寺

武別赤船橋赤船橋 赤月山 浅山寺

武別赤船橋赤船橋 赤月山 浅山寺

武別赤船橋赤船橋 赤月山 浅山寺


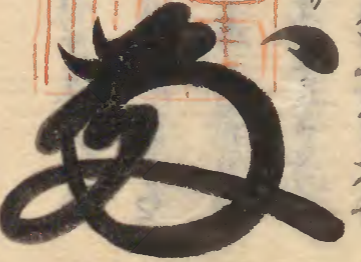
武別赤船橋赤船橋 赤月山 浅山寺



国書府中修布田末部 大志山 安樂寺  
 中志高野那澤自善末 志高山 志高寺  
 武州八王寺 志高山 志高寺  
 武州大佐那伊勢系 志高山 志高寺  
 肥前國志高 志高山 志高寺  
 甲州那賀郡乙系 大志山 明暗寺  
 巨州国吉郡大系村 大志山 明暗寺  
 武州比企郡上志高 大志山 明暗寺  
 同武比企郡小河 大志山 明暗寺  
 以上志高寺

奇竹流

勢州河内郡卷花新 勢山 卷花寺  
 石川波山 勢山 卷花寺  
 卷花寺多 勢山 卷花寺  
 武州流志 勢山 卷花寺  
 常川流波那 勢山 卷花寺  
 下流志那那那那 勢山 卷花寺  
 武州國中流志 勢山 卷花寺  
 上流志利那那 勢山 卷花寺  
 以上九ヶ寺  
 小系流 勢山 卷花寺  
 志州中系 勢山 卷花寺  
 中流志那那 勢山 卷花寺

此一冊之流歌之秘歌也  
 能以子文之有自得者也  
 先師  
 右流歌一毛流歌為我歌依  
 此心令相傳信據也  
 行中流歌  
 文化館藏  
  


四

中川流歌  
 江流分り出船を中一切不可通  
 入形を中流歌  
 江流分り出船を中一切不可通  
 入形を中流歌  
 女市流歌  
 一切不可通  
 流歌二挺進を中一切不可通



同山宮部多利村 法蓮寺

同山宮部多利川 法春寺

同山宮部多利 法春寺

同山宮部多利 普安寺

以上六ヶ寺

小笹流 普春山

同山宮部多利 利光寺

同山宮部多利 法林寺

以上三ヶ寺

梅地流 金剛寺

上野園宮部 慈光寺

同山同所 大徳山 法海寺

同山宮部多利 安樂寺

同山宮部多利 法雲寺

同山宮部多利 法心寺

同山宮部多利 法心寺

同山宮部多利 法心寺

同山宮部多利 法心寺

同山宮部多利 法心寺

同山宮部多利 法心寺

同山宮部多利 法心寺

以上三ヶ寺

一 数多時を待たせ給ふに任じ給ふ外

一 武具同前並之可申

一 一人忍入居るに給ひ給物逐次奉

一 言更候おろし通しそれより

一 ちいさき給物を取らぬ可申

一 万一本家より御河へは生給を

一 湯室より及下り申事

一 湖國人又三年有月奉給無死人

一 恒成徳又三年有月奉給無死人

一 右三ヶ寺は給物仍申知申事

一 貞享三年十月廿一日 奉行

一 右三ヶ寺は給物仍申知申事

一 右三ヶ寺は給物仍申知申事

一 右三ヶ寺は給物仍申知申事

一 右三ヶ寺は給物仍申知申事

一 右三ヶ寺は給物仍申知申事

一 右三ヶ寺は給物仍申知申事

一 右三ヶ寺は給物仍申知申事

一 右三ヶ寺は給物仍申知申事

一 右三ヶ寺は給物仍申知申事

一 右三ヶ寺は給物仍申知申事

一 右三ヶ寺は給物仍申知申事

一 右三ヶ寺は給物仍申知申事

一 右三ヶ寺は給物仍申知申事

五

東山遠山陽道并海道邊中

地方より申す可申事

西徳年四月十日大目付申上申事

一 家七道之申事

東山道

山陽道

山陽道

山陽道

山陽道

山陽道

山陽道

山陽道

山陽道

山陽道

山陽道

山陽道

山陽道

山陽道



日本國中虚宿之寺此六流合之推  
或寺

分二

此別水戸江形是之何流志之知号  
及形之別別別のりそり下尾別  
以流其新あり他出ふ出外

天以之申子

碧海度 虚 空 料 巨 珍 保

九別珍保 芳性珍保 珍珍虚虚

系虚空 下世虚空 突虚空

珍保流 印虚空 志 津

父 卷 居 系 浪 花

西海道

い川ま下海道の道心舟を千川海等  
玉と傳へり

中柱の玉

甲斐の國

い道又海道の事のありて

い川ありて

日之道中

甲州乃井

右之趣

六 菅原

一 菅原の仕法生業を本日秘あり

柳之枝 六月雨 系珍保

云 塔 云 卷 古 田

雲井 映 色 終

礼 曲

吾野山 系椰子 櫻椰子

系若垣 三系若垣 雲井若垣

粘田若垣 二辰椰子 藤 古

源 系 正 若垣 棠 終

親波椰子 終

一 岸六寸 中守 同四寸

岸六寸 中守 同四寸

西海道

い川ま下海道の道心舟を千川海等  
玉と傳へり

中柱の玉

甲斐の國

い道又海道の事のありて

い川ありて

日之道中

甲州乃井

右之趣

六 菅原

一 菅原の仕法生業を本日秘あり

治事をおくを記し終り砂を渡りて  
後を言て根本の方より知れ刻を  
六 並出下下たりたり上白く指し終り  
わたりて 菅原の務一外系若垣終り合  
なり入りて水にてと和合を原いなり  
い川ありて又をゆりて後を味  
を川ありて又をゆりて後を味  
こを附て又をゆりて後を味  
を川ありて又をゆりて後を味

廿九日

五と不他い系若垣又食れ若垣若垣系  
原いなり合系若垣若垣若垣若垣







若年寄取上之新西礼之新裁初居任也

生父子世也初在任也

右此中老中支礼也此中用南之由老中

持津吉殿同若年寄取上之新西礼也

支田用苗并持津吉殿

一 此卷有之由老右苗人云云之是初居

但此中老中支礼也此中用南之由老中

支礼也此中老中支礼也此中用南之由老中

支礼也此中老中支礼也此中用南之由老中

支礼

右此中老中支礼也此中用南之由老中

若年寄取上之新西礼也此中用南之由老中

持津吉殿同若年寄取上之新西礼也

書知之新西礼也此中用南之由老中

生父子世也初在任也

右此中老中支礼也此中用南之由老中

持津吉殿同若年寄取上之新西礼也

支田用苗并持津吉殿

一 此卷有之由老右苗人云云之是初居

但此中老中支礼也此中用南之由老中

支礼也此中老中支礼也此中用南之由老中

支礼也此中老中支礼也此中用南之由老中

支礼

右此中老中支礼也此中用南之由老中

若年寄取上之新西礼也此中用南之由老中

持津吉殿同若年寄取上之新西礼也

右此中老中支礼也此中用南之由老中

四月

申川勘三郎

右此中老中支礼也此中用南之由老中

持津吉殿同若年寄取上之新西礼也

支田用苗并持津吉殿

一 此卷有之由老右苗人云云之是初居

但此中老中支礼也此中用南之由老中

支礼也此中老中支礼也此中用南之由老中

支礼也此中老中支礼也此中用南之由老中

支礼

右此中老中支礼也此中用南之由老中

若年寄取上之新西礼也此中用南之由老中

持津吉殿同若年寄取上之新西礼也

支田用苗并持津吉殿

一 此卷有之由老右苗人云云之是初居

但此中老中支礼也此中用南之由老中

支礼也此中老中支礼也此中用南之由老中

右此中老中支礼也此中用南之由老中

持津吉殿同若年寄取上之新西礼也

支田用苗并持津吉殿

一 此卷有之由老右苗人云云之是初居

但此中老中支礼也此中用南之由老中

支礼也此中老中支礼也此中用南之由老中

支礼也此中老中支礼也此中用南之由老中

支礼

右此中老中支礼也此中用南之由老中

若年寄取上之新西礼也此中用南之由老中

持津吉殿同若年寄取上之新西礼也

支田用苗并持津吉殿

一 此卷有之由老右苗人云云之是初居

但此中老中支礼也此中用南之由老中

支礼也此中老中支礼也此中用南之由老中

支礼也此中老中支礼也此中用南之由老中

支礼



侍従... 任家柄... 支遣  
五... 不若... 博風...  
有... 色... 人... 博風...  
彼... 用... 事...

一... 檢... 元... 下... 元... 以上... 元... 五...  
五... 書... 出... 孫... 子... 月... 底... 元... 元... 元...  
元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...  
元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...

一... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...  
有... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...  
元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...  
元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...  
元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...

同... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...  
評... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...

五  
大坂御陣中制札  
禁制

- 一 軍勢甲乙人等礼妨根藉子
  - 一 放火事
  - 一 刈補田畑他毛事
  - 一 附... 伐採竹木事
  - 一 右條... 世所信止早若於遠宵... 當之
  - 一 迷下受爰科分事 作也也仍仍件
- 元禄十九年十月日 附... 大坂御

仕... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...  
仕... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...  
元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...  
元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...

一... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...  
元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...  
元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...  
元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...

一... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...  
元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...  
元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...  
元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...

元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...  
元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...  
元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...  
元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...

十  
元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...

- 一 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...
- 一 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...
- 一 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...
- 一 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...
- 一 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元... 元...







お通の事交軍勢振養云々  
一 舟渡り候不お文化之故云々  
一 文馬以節同布云々  
右條之若松遠道之旗云々  
者也

慶長二十年四月四日

六  
普化元年三月三日  
公命云々

治化二年六月廿六日  
是月十日普化元年  
乃熱心節居心節云々

神お改の上にお通云々  
治化元年六月廿六日  
普化元年三月三日  
中野山代通云々  
忠則公上にお通

附九  
普化元年三月三日  
六月廿六日  
普化元年三月三日

普化元年三月三日  
普化元年三月三日  
普化元年三月三日  
普化元年三月三日

是よりして是亦神宮  
一 一布之昔云々  
一 一合之昔云々  
捕云々  
一 一往云々

山伏 中男 折 杖 笠 持 杖 女  
前髪云々

一 一往云々  
一 一往云々  
一 一往云々  
一 一往云々

勤番人数

三人宛 一人  
一 一往云々  
一 一往云々

一 一往云々  
一 一往云々  
一 一往云々  
一 一往云々  
一 一往云々  
一 一往云々  
一 一往云々  
一 一往云々  
一 一往云々  
一 一往云々



慶長二年同日

十一 所門中心好

- 流所櫓免番之用
  - 三之階下於杖笠扇之用
  - 所門清浄之沙汰之用
  - 所門之中ニ付年之用
  - 流所ノ老因返ニ市田用所ノ知所
- 以上

十二 所門ノ流也通方ニ年

天保九年十月

恒常書出目付池田理地所為流也  
通方ニ年支書中合巨神也流也  
此作中身外方ニ色也流也上中  
一 翠簾 幕 櫛 為 表 床 正 繩  
板 杖 本 於 柱 事 致 屋 風 換 流 物 致  
麻 籠 倉 花 板 延 為 流 建 是 類  
漆 倉 竹 台 番 白 屋 名 尾  
在 所 門 出 切 子 在 所 門 出 切 子 通 方 中  
此 切 板 杖 望 繩 細 工 生 之 水 流 淨  
物 正 一 切 切 子 等 所 亦 有 是 也 中  
在 臺 界 之 柱 事 於 生 是 也 流 所 中  
之 所 亦 有 是 也 中

七 女書物出ノ通方ニ年有書

此書六為年十月廿九日申為在流所年有書  
宅十馬書ノ所生也年有書在流所  
恒常書出目付池田理地所為流也  
所ノ出ノ書升也書物通方通ノ書也  
不審成也ノ柱等ノ書物也通方通  
之方所也書物也書物也通方通  
之書物也書物也通方通ノ書物也  
通方通ノ書物也通方通ノ書物也  
右ノ通方通ノ書物也通方通ノ書物也

文化十三年四月廿二日

恒常書出目付池田理地所為流也  
夜中女書物及方通ノ書物也通方通  
二月申書物也通方通ノ書物也通方通  
女書物也通方通ノ書物也通方通  
後ノ書物也通方通ノ書物也通方通  
序相通方通ノ書物也通方通  
此書物也通方通ノ書物也通方通  
之書物也通方通ノ書物也通方通  
之書物也通方通ノ書物也通方通  
中ノ書物也通方通ノ書物也通方通  
右ノ通方通ノ書物也通方通ノ書物也



畏山の上

神田橋山南表  
新井伊藤吉岡

四月廿方

着林九集

杉本柳平皮

八

出方、市女山通方、

左羅中、去年十月、方南高、山内、方、市、人、  
目、杉、本、九、集、方、市、を、在、高、山、の、中、に、お、か、  
さ、し、た、

山内、杉、本、九、集、方、市、を、在、高、山、の、中、に、お、か、  
さ、し、た、

九

大子、高、山、通、方、

文化十三年二月十日、山内、杉、本、九、集、方、市、を、在、高、山、の、中、に、お、か、  
さ、し、た、

夜中、出、方、市、中、杉、本、九、集、方、市、を、在、高、山、の、中、に、お、か、  
さ、し、た、

杉、本、九、集、方、市、を、在、高、山、の、中、に、お、か、  
さ、し、た、

十

杉、本、九、集、方、市、を、在、高、山、の、中、に、お、か、  
さ、し、た、

一 秋之移、車、多、く、出、金、切、子、を、以、て、  
通、中、山、

一 牛、車、地、車、後、引、車、夜、車、を、以、て、  
山、内、杉、本、九、集、方、市、を、在、高、山、の、中、に、お、か、  
さ、し、た、

一 如、く、多、く、出、金、切、子、を、以、て、  
手、元、を、お、か、し、た、

一 但、し、列、島、の、山、内、杉、本、九、集、方、市、を、在、高、山、の、中、に、お、か、  
さ、し、た、

一 杉、本、九、集、方、市、を、在、高、山、の、中、に、お、か、  
さ、し、た、

一 所、在、杉、本、九、集、方、市、を、在、高、山、の、中、に、お、か、  
さ、し、た、

一 山、内、杉、本、九、集、方、市、を、在、高、山、の、中、に、お、か、  
さ、し、た、

一 所、在、杉、本、九、集、方、市、を、在、高、山、の、中、に、お、か、  
さ、し、た、

一 大、山、内、杉、本、九、集、方、市、を、在、高、山、の、中、に、お、か、  
さ、し、た、

一 杉、本、九、集、方、市、を、在、高、山、の、中、に、お、か、  
さ、し、た、







不實成事... 心持市野川

一 女中... 心持市野川

市... 心持市野川

三月廿四日

口南青

御終... 心持市野川

十一 女中... 心持市野川

又改... 心持市野川

女中... 心持市野川

心持市野川

心持市野川

一 女中... 心持市野川

市... 心持市野川

心持市野川

心持市野川

心持市野川

心持市野川

心持市野川

又改... 心持市野川

女中... 心持市野川

心持市野川



藤原朝臣

板倉村

河村

川口

十一

文政五年... 河村... 川口... 藤原朝臣... 板倉村... 河村... 川口...

一 河村... 川口... 藤原朝臣... 板倉村... 河村... 川口...

一 河村... 川口... 藤原朝臣... 板倉村... 河村... 川口...

一 河村... 川口... 藤原朝臣... 板倉村... 河村... 川口...

右... 藤原朝臣... 板倉村... 河村... 川口...

一 板倉村... 河村... 川口... 藤原朝臣... 板倉村... 河村... 川口...

一 河村... 川口... 藤原朝臣... 板倉村... 河村... 川口...

一 河村... 川口... 藤原朝臣... 板倉村... 河村... 川口...

一 河村... 川口... 藤原朝臣... 板倉村... 河村... 川口...

十月... 藤原朝臣... 板倉村... 河村... 川口...

一 河村... 川口... 藤原朝臣... 板倉村... 河村... 川口...

一 河村... 川口... 藤原朝臣... 板倉村... 河村... 川口...

右... 藤原朝臣... 板倉村... 河村... 川口...



九月廿九

田村右衛門  
早田右衛門  
在田家之末

十二

中世事多乃抄物也所書

隆山抄律書

田村右衛門抄物

一 新抄丸 新抄白

一 西丸 新抄白

一 元正事多乃抄後之書正事多乃抄律書

一 中世事多乃抄後之書中世事多乃抄律書

一 隆山抄律書抄物

一 升戸左衛門

一 駒地律書用原委

一 湯系極爲禪而用原委

一 中世三友稿

隆山抄律書抄物

一 新抄丸表向中抄丸原委

一 西丸表向中抄丸原委

一 西丸奥出性出御入御所抄丸原委

一 奥出性出御入御所抄丸原委

一 奥出性出御入御所抄丸原委

一 奥出性出御入御所抄丸原委

一 奥出性出御入御所抄丸原委

一 奥出性出御入御所抄丸原委

一 奥出性出御入御所抄丸原委

四月廿九日

中世事多乃抄後之書中世事多乃抄律書

一 隆山抄律書抄物

一 中世事多乃抄後之書中世事多乃抄律書

一 隆山抄律書抄物

一 中世事多乃抄後之書中世事多乃抄律書

一 隆山抄律書抄物

一 中世事多乃抄後之書中世事多乃抄律書

一 隆山抄律書抄物

一 中世事多乃抄後之書中世事多乃抄律書

一 隆山抄律書抄物

一 中世事多乃抄後之書中世事多乃抄律書

一 隆山抄律書抄物

田村右衛門

早田右衛門

在田家之末

隆山抄律書抄物

中世事多乃抄後之書中世事多乃抄律書

隆山抄律書抄物

中世事多乃抄後之書中世事多乃抄律書

隆山抄律書抄物

中世事多乃抄後之書中世事多乃抄律書

隆山抄律書抄物

中世事多乃抄後之書中世事多乃抄律書

隆山抄律書抄物

中世事多乃抄後之書中世事多乃抄律書

十四

田村右衛門

早田右衛門

在田家之末

隆山抄律書抄物

中世事多乃抄後之書中世事多乃抄律書

隆山抄律書抄物

中世事多乃抄後之書中世事多乃抄律書

隆山抄律書抄物

中世事多乃抄後之書中世事多乃抄律書

隆山抄律書抄物

中世事多乃抄後之書中世事多乃抄律書

隆山抄律書抄物



















竹橋市北

新橋市平山町中橋

竹田屋敷市北町

村松屋敷市北町

砂利 妻屋敷

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

竹橋市北

新橋市平山町中橋

竹田屋敷市北町

村松屋敷市北町

砂利 妻屋敷

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

竹橋市北

新橋市平山町中橋

竹田屋敷市北町

村松屋敷市北町

砂利 妻屋敷

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町

砂利 市北町



- 一 中川書局
- 一 或書院代筆の習字
- 一 伯田河野橋
- 一 道三橋
- 一 夜山門社上三九因
- 一 王子金梅寺
- 一 獅子橋
- 一 石上野原

十四 中川書局を以て  
 明治四十二年二月五日在りて因市官廳

本村田村伊藤等  
 抄物之新出の紙張

三月九日  
 三月十日  
 三月十一日  
 三月十二日  
 三月十三日  
 三月十四日  
 三月十五日  
 三月十六日  
 三月十七日  
 三月十八日  
 三月十九日  
 三月二十日  
 三月二十一日  
 三月二十二日  
 三月二十三日  
 三月二十四日  
 三月二十五日  
 三月二十六日  
 三月二十七日  
 三月二十八日  
 三月二十九日  
 三月三十日

下九  
 中書局  
 抄物之新出の紙張

此牌之代書成生南生  
 後山在保代文作  
 上極

一 死中社徳徳社  
 上極  
 一 夜山門社  
 上極  
 一 王子金梅寺  
 上極  
 一 獅子橋  
 上極  
 一 石上野原  
 上極

書上極山  
 抄利

三月九日  
 三月十日  
 三月十一日  
 三月十二日  
 三月十三日  
 三月十四日  
 三月十五日  
 三月十六日  
 三月十七日  
 三月十八日  
 三月十九日  
 三月二十日  
 三月二十一日  
 三月二十日  
 三月二十三日  
 三月二十四日  
 三月二十五日  
 三月二十六日  
 三月二十七日  
 三月二十八日  
 三月二十九日  
 三月三十日

下九  
 中書局  
 抄物之新出の紙張



中合長中... 坊名... 坊名... 坊名...

右... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名...

高... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名...

中... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名...

但坊... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名...

但... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名...

但... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名...

但... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名... 坊名...







一 大樹寺

所宮 内書卷 内書向 内書堂 内書向

一 松蔭寺

所書卷 所書向 所書堂 所書向

一 信芝海寺

所書卷 所書向 所書堂 所書向

一 矢代橋

一 古田橋

相引

一 總倉橋 所書卷 所書向 所書堂 所書向

一日之

所書卷 所書向 所書堂 所書向

所書卷 所書向 所書堂 所書向

右之介 住古田 所書卷 所書向 所書堂 所書向

當時之書面 所書卷 所書向 所書堂 所書向

亥之月

十五

由書信方抄物固所書

嘉永四年四月廿七日 亥之月 亥之

御入中務所 所書卷 所書向 所書堂 所書向

西書信方抄物

一 住古田 所書卷 所書向 所書堂 所書向

百世所人 所書卷 所書向 所書堂 所書向

砂利

所書卷 所書向 所書堂 所書向

一 所見所人 所書卷 所書向 所書堂 所書向

所書卷 所書向 所書堂 所書向

所書卷 所書向 所書堂 所書向

所書卷 所書向 所書堂 所書向

所書卷 所書向 所書堂 所書向

所書卷 所書向 所書堂 所書向

所書卷 所書向 所書堂 所書向

砂利 所書卷 所書向 所書堂 所書向

一 又々々々 所書卷 所書向 所書堂 所書向

所書卷

砂利

所書卷 所書向 所書堂 所書向

所書卷 所書向 所書堂 所書向

所書卷 所書向 所書堂 所書向

所書卷 所書向 所書堂 所書向

所書卷 所書向 所書堂 所書向

所書卷 所書向 所書堂 所書向

所書卷

一 所書卷 所書向 所書堂 所書向

所書卷 所書向 所書堂 所書向

所書卷 所書向 所書堂 所書向

所書卷 所書向 所書堂 所書向

所書卷 所書向 所書堂 所書向

所書卷 所書向 所書堂 所書向

所書卷



由是後由後物由且持物多作福是  
我之由物汝方月望

四月

有申禁論

三月申禁論及

由是後由

先定由由在之由通持水之由外  
由是後由後物由物若持物分  
由持物中在之由

九月

由是後由持物箇所書

物之口不一石橋至聖橋由外  
由可通五箇橋生代由所分

一 牧士

牧士身之由持物由由

中極

百姓之身之由持物由由

砂利

在之文化八末年二月一尊

由書之由

一 苗字帶刀之百姓

是之文化九年江列布之田村所  
之申之御士大之在村通在  
一 屋作破之上至野所由之持物  
由持物上之由用砂利之由之  
一 屋作破之上至野所由之持物  
由持物上之由用砂利之由之

由可通四管大通由在由之方

村由所由持物

通方由由持物箇所

大由由由持物箇所由之由通由  
由後由通通由由持物

由之通通由由持物

由物由由由持物箇所由之由通由

方由及由由通通由由持物

由用由由由通通由由持物

一 橋由外由持物箇所由之由

由物由由由持物箇所由之由通由

代由所由由持物箇所由之由通由

由書之由

一 由之由持物

中極

是之文化九年八月所由之由

合之上極

但持物由持物箇所由之由

法曹三十七

一 由之由持物

上極

一 甲之由持物

中極

甲之由持物由持物箇所由之由

中極

由物由由由持物箇所由之由

由物由由由持物箇所由之由

由物由由由持物箇所由之由







- 一 信長屋敷河原庄而橋近道下小古
- 一 道三橋淺橋橋好橋橋高而後左道
- 一 中殿并中用包卷上道道下小古
- 一 町奉行所定有火消役市及倉庫
- 一 近道下小古
- 一 永田河山王攝加并板中川内赤赤新
- 一 左道
- 一 丸尾河古橋并坊寺表門布内切道古
- 一 近道
- 一 幸橋外内池形市橋通近道
- 一 但市田以南之方中殿分内人橋
- 一 市田以南之方

- 一 村田河原古橋
- 一 上中寺後橋和御園所
- 一 新中殿中上橋四古大寺屋鞠所拾可目
- 一 元祿白紙河所通四古而御城極鞠所通
- 一 半島山代所古寺上寺寺而亦近
- 一 中殿包紙
- 一 中殿包紙
- 一 竹橋市川紙
- 一 鎌倉橋市川包紙
- 一 橋市川紙
- 一 西番所紙
- 一 半島山門紙
- 一 四行市川紙

- 一 但代々子之古 下橋
- 一 火葬寺 上橋
- 一 是寺是改十二年寺定社寺杉平
- 一 因所寺紙多布又々色紙紙
- 一 勢田右邪米年寺富田御所
- 一 御所寺紙出支紙紙及寺寺人
- 一 紙中合子寺身寺寺寺中寺寺
- 一 例寺寺寺紙寺寺寺 中橋
- 一 寺寺寺寺寺寺寺寺寺 砂利
- 一 寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺
- 一 寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺

- 一 三信馬所及人 砂利
- 一 德寺寺所用之寺寺寺寺寺
- 一 町奉行所通及布布寺城寺寺
- 一 又改二年寺寺寺寺寺寺寺
- 一 接板
- 一 町年寺 上橋
- 一 天國二年寺寺寺寺寺寺寺
- 一 信所寺寺寺寺寺寺寺
- 一 守隨寺寺寺 下橋
- 一 町人寺代寺寺寺寺寺寺寺
- 一 寺後所寺寺寺寺寺寺
- 一 中橋















治曆三丁未	志德三丙寅	延喜四甲子
美徳元丁丑	長治二乙酉	天慶五壬寅
永久四丙申	天治元甲辰	志和元辛酉
建曆元辛未	康治二癸亥	天元三庚辰
寛喜二庚寅	志保二壬午	長保元己亥
文永五戊辰	養和元辛巳	天喜四丙申
貞治二癸卯	正治二庚申	嘉保元甲辰
永徳二壬戌	美久元己卯	永久元癸巳
志永八辛巳	曆仁元戊戌	安貞元丁亥
同廿七庚子	永仁三乙未	正嘉元丁巳
永享十一己未	正慶二癸酉	建治二丙子
長祿二戊寅	康永三甲申	志安四辛亥
文明九丁酉	文和元辛卯	明德元庚午

天文廿二癸丑	文正元丙戌	志永十六己丑
元龜三壬申	明志五丙辰	正長元戊申
天正十一癸未	永正十二乙亥	文明十七乙巳
同十九辛卯	慶長十五庚戌	永正元甲子
元祿二己巳	寛永六己巳	大永三癸未
享保十二丁未	寛文七丁未	天文十一壬寅
天明四甲辰	元祿十丁丑	永祿四辛酉
享和三癸亥	享保元丙申	慶長四己亥
文政五壬午	望曆四甲戌	元和四戊午
天保十二辛丑	寛政四壬子	寛永十四丁丑
	文化八辛未	貞享三丙寅
	嘉永五壬子	享保二十乙卯
		安永二癸巳

天仁	嘉承三年八月三日	天承	天仁三年七月十三日
永久	天承四年七月十三日	元承	永久六年四月三日
保安	元承三年四月十日	天治	保安五年四月三日
大治	天治三年正月廿二日	天承	大治六年正月廿二日
長承	天承二年八月十一日	保延	長承四年四月廿七日
永治	保延七年七月十日	康治	永治二年四月廿八日
天養	康治三年二月廿三日	久安	天養二年七月廿二日
仁平	久安七年正月廿六日	久壽	仁平四年十月廿八日
保元	久壽三年四月廿七日	平治	保元四年四月廿日
永曆	平治二年正月廿日	應保	永曆二年九月四日
長寛	應保三年三月廿九日	永萬	長寛三年六月五日
仁安	永萬二年八月廿七日	嘉應	仁安四年四月八日

承安	嘉應三年四月廿一日	安元	承安五年七月廿八日
治承	安元三年八月四日	養和	治承五年七月十四日
壽永		元曆	壽永三年四月十六日
文治	元曆二年八月十四日	建久	文治六年四月十一日
正治	建久十年四月廿七日	建仁	正治三年二月十三日
元久	建仁四年二月廿日	建永	元久三年四月廿三日
承元	建永二年十月廿五日	建曆	承元五年七月十四日
建保	建曆三年十二月六日	承久	建保七年四月十二日
貞應	承久四年四月十三日	元仁	貞應元年十二月廿日
嘉祿	元仁二年四月廿日	安貞	嘉祿三年十二月十一日
寛喜	安貞三年三月五日	貞永	寛喜四年四月二日
天福	貞永二年四月十五日	文曆	天福二年十一月五日



文政十三庚寅	萬延七庚申	白鳳十三甲申	白雉五甲寅	白鳳二癸酉
文政十四辛卯	萬延八辛酉	大寶三癸卯	室龜十己未	和銅四辛亥
文政十五壬辰	萬延九壬戌	養老六壬戌	延曆六丁卯	天平二庚午
文政十六癸巳	萬延十癸亥	天平字四庚子	同十七戊寅	神護景雲三庚申
閏四月	閏五月	閏六月		

弘仁八丁酉	美和三丙辰	貞觀五癸未
齊衡二乙亥	寬平五癸丑	延喜元辛酉
貞觀十六甲午	延喜十二壬申	同二十庚辰
延長元癸未	美平元壬辰	長和四乙卯
長曆元丁丑	天曆四庚戌	長元七甲戌
長美元壬子	安和二己巳	永保三癸亥
仁平元辛未	永延二戊子	久安四戊辰
嘉祿二庚寅	寬弘四丁未	治兼二戊戌
文治五己酉	万寿三丙寅	建久八丁巳
美元二戊辰	康平七甲辰	建保四丙子
寬元四丙午	康和四壬午	嘉禎二丙申
文永二乙丑	保安二辛丑	正心五壬辰
弘安七甲申	保延六庚申	心長元辛亥

嘉禎	文曆二年九月十九日	曆仁	嘉禎四年十一月廿三日
延應	曆仁二年二月七日	仁治	延應二年七月十六日
寬元	仁治四年二月廿六日	寶治	寬元五年二月廿八日
建長	室治三年三月十八日	康元	建長八年十月十日
正嘉	康元二年三月十四日	正元	正嘉三年三月廿八日
文應	正元二年四月十三日	弘長	文應二年二月廿日
文永	弘長四年二月廿八日	建治	弘長三年四月廿五日
弘安	建治四年二月廿九日	正應	弘安十二年四月廿八日
永仁	正應六年八月五日	正安	永仁七年四月廿五日
乾元	正安四年十一月廿一日	嘉元	乾元二年八月五日
德治	嘉元四年十二月十四日	延慶	德治三年十月九日
應長	延慶四年四月廿八日	正和	應長二年三月廿日

文保	正和六年二月三日	元應	文保三年四月廿八日
元亨	元應三年二月廿三日	正中	元亨四年十二月九日
嘉曆	正中三年四月廿六日	元德	嘉曆四年八月廿九日
元弘	元德三年八月十日	正慶	元弘二年四月廿八日
建武	元弘四年正月廿九日	延元	建武三年二月廿九日
曆應	延元五年八月廿八日	康永	曆應五年二月廿七日
貞和	康永四年十月廿一日	觀應	貞和六年二月廿七日
文和	觀應三年九月廿七日	延文	文和五年三月廿八日
康安	延文六年三月廿九日	貞治	康安三年九月廿三日
應安	貞治七年二月十八日	永和	應安八年二月廿七日
康曆	永和五年三月廿二日	永德	康曆三年二月廿四日
至德	永德四年二月廿七日	嘉慶	至德四年八月廿三日



嘉元元癸卯	平治元乙卯	元德二庚午
曆元四辛巳	建長六甲寅	貞和六己丑
延文五庚子	元亨二壬戌	志安元戊申
康曆元己未	嘉慶元丁卯	志永十三丙戌
志永五戊寅	永亨八丙辰	同三十二乙巳
康正元乙亥	文明六甲午	文安元甲子
明志二癸丑	享祿四辛卯	寬正四癸未
永正九壬申	天文十九庚戌	文龜元辛酉
慶長十二丁未	永祿十二己巳	永正十七庚辰
寬永三丙寅	天正十六戊子	天文八己亥
明曆二丙申	正保二乙酉	永祿元戊午
延寶三乙卯	寬文四甲辰	元和元乙卯
室永二乙酉	天和三癸亥	景德二癸己

康應	應永	永亨	文安	享德	長祿	文正	文明	延德	文龜	大永	天文
嘉慶三年二月九日	明德五年七月五日	正長二年九月五日	嘉吉四年二月五日	寶德四年七月五日	康正三年九月八日	寬正七年二月八日	志仁三年四月八日	長亨三年八月十一日	明志十年二月九日	永正十八年八月三日	享祿五年七月九日
明德	正長	嘉吉	寶德	康正	寬正	應仁	長亨	明應	永正	享德	弘治
康應二年三月廿六日	志永三年四月廿七日	永亨十三年二月十七日	文安六年七月廿七日	享德四年七月廿五日	長祿四年十二月廿一日	文正三年三月五日	文明十九年七月廿日	延德四年七月十九日	文龜四年二月廿日	大永八年八月廿日	天文四年十月廿三日

享保九甲辰	元祿七甲戌	寬文十三壬子
寬保三癸亥	正德三癸己	室曆元辛未
室曆十二壬午	享保十七壬子	明和七庚寅
寬政十二庚申	天明元辛丑	寬政元乙酉
文政二己卯	弘化三丙午	文化五戊辰
天保九戊戌	嘉永三己酉	文政十癸亥

永祿	天正	慶長	寬永	慶安	明曆	寬文	天和	元祿	正德	元文	延亨
弘治四年二月廿八日	元龜四年七月廿八日	文祿五年二月廿七日	元和十年二月廿日	正保五年二月十五日	承應四年四月十三日	萬治四年四月十三日	延寶四年九月九日	貞亨八年九月廿九日	寶永八年四月廿五日	享保廿一年四月廿八日	寬保四年三月廿一日
元龜	文祿	元和	正保	承應	萬治	延寶	貞亨	寶永	享保	寬保	寬延
永祿十三年四月廿三日	天正廿一年十二月八日	慶長廿一年七月十三日	寬永廿二年十二月十六日	慶安五年九月十八日	明曆四年九月十八日	寬文十三年九月廿一日	天和四年二月廿一日	元祿十一年四月十三日	正德六年六月廿二日	元文六年三月三日	延亨五年七月廿四日



閏七月 閏八月 閏九月

天智元壬戌	持統三庚寅	白雉二辛亥
白鳳十辛巳	和銅元戊申	天智九庚午
文武四庚子	天智字元丁酉	神龜四乙卯
養老三己未	寶龜八丁巳	天平六丙戌
天平十己卯	仁壽二壬申	延曆三甲子
延曆十四乙亥	貞觀十三辛卯	弘仁十三壬寅
弘仁五甲午	延喜九己巳	康和元己卯
天長十癸丑	延長六戊子	元永元戊戌
兼和十甲子	康保三丙寅	保延三丁巳
元慶六乙寅	寬和元乙酉	保元元丙子
天慶二己亥	康平四辛丑	安元元乙未

天曆元丁未	養曆四庚申	建保元癸酉
天德二戊午	建久五甲寅	貞永元壬辰
貞元二丁丑	延慶元戊申	建長三辛亥
長德二丙申	享德元壬申	元永七庚午
天喜元癸巳	延德二庚戌	貞和元丙戌
寬治五辛未	永正六己巳	貞治四乙巳
天永元庚寅	永祿九甲寅	至德元甲子
大治四己酉	天正十三乙酉	應永廿四丁酉
仁安二丁亥	慶長九甲辰	嘉吉元辛酉
文治二丙午	元和九癸亥	寬正元庚辰
元久二乙丑	寬文元辛丑	文明十己亥
元仁元甲申	延宝八庚申	享祿元戊子
寬元元癸卯	元祿四辛未	文祿二癸巳

寶曆	寬延四年 十月廿八日	明和	宝曆十四年 六月十九日
安永	天明九年 十一月十六日	天明	安永十年 四月六日
寬政	天明九年 五月十一日	享和	寬政十三年 二月廿一日
文化	享和四年 二月廿七日	文政	文化十五年 五月四日
天保	文政十三年 十二月十日	弘化	天保十五年 十二月十三日
嘉永	弘化五年 三月十五日	安政	嘉永七年 十一月五日
萬延	安政七年 三月朔日	文久	萬延元年 二月廿八日
元治			

右年号改元之世和漢年契...  
 初年元子年七月廿七日冬列...  
 高田...

十七  
 此...  
 大治四年...

此...  
 大治七年...  
 中書...

此...  
 大治六年...  
 此...  
 此...







閏十月 閏十一月 閏十二月

天智五己未	天智六丁卯	大化四戊申
白鳥七戊寅	聖德二丙辰	朱鳥元丙戌
天智勝室六甲午	天智七乙亥	文武元丙辰
天智神護元乙巳	天智勝室元己丑	天智室字全寅
延曆七己亥	寶龜四癸丑	弘仁二辛卯
貞觀二庚辰	延曆十一壬申	天長七庚戌
元慶三己亥	仁安三丁未	嘉祥二己巳
昌泰元戊子	養平六丙申	延喜六丙寅
延喜十七丁丑	長享元丁未	延長三乙酉
天延二甲戌	永正三丙寅	天慶七甲辰
正曆四癸巳	大承五乙酉	応和三癸亥

長元四辛未	天文二甲辰	天元五壬午
永兼五庚寅	天正二甲戌	長保三辛丑
延久元己酉	慶長六辛丑	寛仁四庚申
寛治二戊辰	寛永十六己卯	康平元戊戌
嘉兼二丁亥	元文二丁巳	正曆元丁巳
大治元丙午	宝曆六丙子	長兼三甲寅
久安元乙丑	寛政六甲寅	仁平三癸酉
長寛二甲申	文化十癸酉	兼安二壬辰
建仁二壬辰	天保三壬辰	建久二辛亥
兼久三辛巳		宝治二戊申
仁治元庚子		弘安九丙戌
正元元己未		永祿六癸亥
弘安元戊寅		元和六庚申

此書係傳本  
 卷之五  
 山内道隆  
 有為之書...  
 延喜...  
 天長...  
 元慶...  
 仁安...  
 長保...  
 寛仁...  
 康平...  
 正曆...  
 長兼...  
 仁平...  
 兼安...  
 建久...  
 宝治...  
 弘安...  
 永祿...  
 元和...

長谷...  
 延喜...  
 天長...  
 元慶...  
 仁安...  
 長保...  
 寛仁...  
 康平...  
 正曆...  
 長兼...  
 仁平...  
 兼安...  
 建久...  
 宝治...  
 弘安...  
 永祿...  
 元和...  
 文化八...  
 天保...  
 文政...  
 嘉永...  
 天保...  
 文化...  
 長寛...  
 久安...  
 大治...  
 嘉兼...  
 寛治...  
 延久...  
 永兼...  
 長元...







右字月海子東武牛門 冥祐園主人輯

著トマ一校格、トマ一校以海原

海原以不傷字

天保四年十月十日

十七 中書若方由支配

寛文三十二年二月晦日

一 中書若方由支配

一 中書若方由支配

一 中書若方由支配

一 中書若方由支配

一 中書若方由支配

立事

一 知事別

一 知事別

一 知事別

一 知事別

一 知事別

一 知事別

一 知事別

一 知事別

一 知事別

一 知事別

一 知事別

一 知事別

中書若方由支配

中書若方由支配

中書若方由支配

中書若方由支配

中書若方由支配

中書若方由支配

十九 知事別

一 知事別

一 知事別

一 知事別

立事

一 知事別

一 知事別

一 知事別

一 知事別

一 知事別

一 知事別

一 知事別

一 知事別

一 知事別

一 知事別

一 知事別

一 知事別







右之巻取の形は通定を以てし、  
 官舎を以てし、  
 并殺之上不及接取事

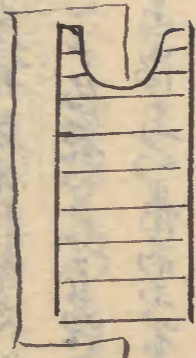
行田流陰形

一 面取之巾

長廿七寸五分  
 幅一丈二寸五分

他文員二厨半二ツ折等寸條六ツ

音 巾仕立上ケ八寸 横布丈



一 三寸餘  
 の上を二寸

一 有身尺惣下重出仕立文尺大

一 或寸角尺用仕立文尺大

一 二重出仕立二丈或寸角

一 存之巾

一 面取巾折取束三包平草三白草は

一 上丈尺出好巾

一 他付好巾丈尺を好之出と三

一 仕立三丈五尺五尺好巾を尺二

一 重出下

一 面取巾半三ツ割角

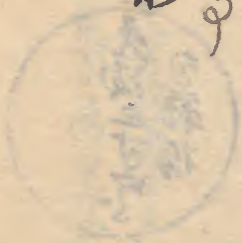
一 面取巾半三ツ割角

一 面取巾半三ツ割角

一 中糸

一 糸

一 草



一 去箇年 竹俵若松引後之節

一 中道節定意を以て申付候之刻

一 心々々々之と申付物、若日申度節

一 相取申候了候、申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

一 申付申付申付申付申付申付申付

三光大学







○所法号附

所代之様

徳川四帝之前後忠公

一 陽雲院殿西相親政道幹大居士

天文十八己酉年三月廿六日薨

三列大樹寺三系

所父原忠公

所母於大之方傳通院殿

一 権現様

天文十三年十月廿六日於三列

是時 所誕生 所 知名

竹久代君所母之山姥若徳心去吏

忠政女於大之方是也八外年

二月十日於軍定不任在左在右

右宿原和崇字玄院別高滿氏

○大概略

千五百石高

行幕市取科八百石

九子石高

由及知二石元

由及科三石元

由石石高

由石石高

由石石高

由石石高

由石石高

由石石高

由石石高

由石石高

高家

法例

法例

法例

法例

法例

法例

法例

法例

法例

法例

法例





右者大馬寮所監年車隨身  
在杖同二年四月

所陽居之和二年三月十七日  
任大政大臣同年四月十七日於

遷府城 慶所 所年七十二  
身為入之鹿山

安國院殿一品德運社宗家吳公  
道和入居士之身唱因之三年

二月廿一日依 勅 年号  
東照大権現同年三月九日

贈正二位任依 所送云同年  
日之山中 所故藤四月曾為

入同八日欽尊靈正位上百年  
二月三日勅許 官号

一 從一位大政大臣德院殿秀忠公

天正七己卯年四月七日於遠列

濱松城 所誕生 所知名初

長松若後号行子介若所母之

西之為一位之所方後 當院殿下

号慶長十七年四月十六日於年

室中内大臣西二位 任大將軍

寬永三三年八月十日上海之和  
九年七月廿七日

所陽居大所所極定承之子年  
十二月西九 所移因九申年

四月廿四日於所因所 慶所  
所年六十而坊上守中身藥助  
正一位大相國尊儀

同所

二石五斗

同所

二石五斗

同所

同所

同所

二石五斗

同所

二石五斗

同所

二石五斗

同所

二石五斗

同所

清水所  
家免

大同所

所存所

山田所

山田所

山田所

山田所

山田所

山田所

山田所

山田所

山田所

山田所

山田所

千五百石

同所

千石

同所

千石

同所

千石

同所

千石

同所

千石

同所

千石

同所

千石

同所

東野所

左海所

繼所

林表所

山田所

日光所

左良所

堀所



台德院才三所子  
一 大猷院殿家光公

慶長九年七月十七日於  
城所誕生 所知名竹中代若  
所出公 所知松山飯之左和九  
三年七月廿七日 將軍 宣旨  
正三位内大臣任定永三嘉年  
七月十二日 所上院同土成年  
六月廿日 所上院同年七月廿日  
十七日及夜 勅役人汝左大臣  
所上院同土三嘉年土月十日  
初光中 月書之更又同年  
十月二日 所上院同及天宮出上南  
十二年四月十日 所上院  
同而丑年八月廿七日 所中九

同所

由及科之百俵

同所

由及科之百俵

由及科之百俵

十石之百

由及科之百俵

二千石之百

三千石之百

二千石之百

二千石之百

二千石之百

二千石之百

跡所所

依所所

所所所

所所所

所所所

所所所

所所所

所所所

所所所

大猷院才一所子  
一 爰有院殿家相公

所後院同年土月十日於  
子安四年四月廿日 所  
所東院山 所東院十八日  
大猷院才一所子  
一 爰有院殿家相公  
慶永十八年八月三日於  
所中九 所知名竹中代若  
所中公室樹院殿家安四年  
八月廿日 將軍 宣旨正三位  
内大臣任定永三嘉年  
六月十八日 所中九  
同年六月十日 所中九  
爰有院殿家相公  
所中九

持之

由及科之百俵

由及科之百俵

由及科之百俵

持之

由及科之百俵

由及科之百俵

由及科之百俵

同所

同所

同所

同所

同所

出消收

由及科之百俵

由及科之百俵

由及科之百俵

由及科之百俵

由及科之百俵

由及科之百俵

由及科之百俵

由及科之百俵



大猷公所慶子

一 崇憲院殿綱右公

正保三年正月八日 所誕生  
所初名德相公 所母公於元正  
後 柱昌院殿十号兼憲三年  
八月十二日位中右近衛權中將  
右馬助 任正三年 綱右公  
中改元元五年 六月九日  
館林院殿或任右近衛權中將  
申年六月廿四日 任正三年  
任正三年七月 所養若公 任正  
即日正位大納言 任正三年八月  
任正三年 所不右近衛大將  
任正三年六月 正位十月  
慶所任兼系系殿山 西年六月

持言

二百俵言

中書科二百俵

持言

持言

持言

持言

持言

持言

持言

持言

持言

持言

法下慶所

北村再品院

兼憲院殿

法服院殿

將仕院殿

將仕院殿

將仕院殿

大坂少納言

中書科二百俵

中書科二百俵

中書科二百俵

中書科二百俵

中書科二百俵

中書科二百俵

同年二月十六日贈正一位大納言

綱重公世子

一 文昭院殿家宣公

寬文二年四月廿七日於攝津  
所殿 所誕生 所初名宣相若  
所母公於保良之方後 兼昌院殿  
宣相之申年十月有若所養子  
西年十月 所入同六月廿五日  
所入同六月廿五日 所入同九月  
十月廿日 所入同九月 所後任正德  
二年十月廿日 慶所任兼系系

因所

因所

因所

因所

中書科二百俵

持言

中書科二百俵

持言

持言

持言

持言

持言

持言

持言

法下慶所

北村再品院

兼憲院殿

法服院殿

將仕院殿

將仕院殿

將仕院殿

大坂少納言

中書科二百俵

中書科二百俵

中書科二百俵

中書科二百俵

中書科二百俵

中書科二百俵



文服公才三所子

一有章院徽家德公

宣和六年七月三日於西苑

所誕生世世同德如君若子

所如公於世世一方後

同是慶慶也正位三年四月二日

所年宣和正位初在右近衛

大位任同六年四月廿日

慶和二年春坊左少輔兼左兵衛

同年六月七日始一位大相繼

一有德院徽吉宗公

貞享元年十月廿日於紀州

所誕生所知名深六君其子嘉德

所宣父純仔二位大納言之受公

同日

同日

同日

同日

由後位轉二轉合轉

同日

由後位轉二轉合轉

同日

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

同日

同日

由後位轉二轉合轉

同日

同日

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

同日

同日

同日

同日

同日

同日

同日

同日

同日

同日

同日

同日

同日

同日

同日

同日

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉

由後位轉二轉合轉



所授承正官 所移号

大所所移下官 承正 承正 承正

梅溪所 豐河 所第六十家

蘇東嶽山 同年 三月十日 確正

一位大相國

一 愷信院徽家重公

正德元年 八月 十日 於先列

家重公 徽 所誕生 所初在

長福君 所移号 大信院 承正 承正

宣德元年 八月 四日 二所

所入 同九月 承正 承正 承正

承正 承正 承正 承正 承正

所讓後 同月 承正 承正

一 愷明院徽家重公

元文二年 八月 十日 於西元

所誕生 所初在 承正 承正

梅溪所 承正 承正 承正

承正 承正 承正 承正 承正

承正 承正 承正 承正 承正

同以

百六拾係言

百六拾係言

百六拾係言

布衣

三百係

三百係

三百係

三百係

三百係

三百係

北條時義

北條時義

北條時義

北條時義

北條時義

北條時義

北條時義

北條時義

北條時義

同以

同以

同以

同以

同以

同以

同以

同以

同以

同以

同以

同以

同以

同以

同以

北條時義

北條時義

北條時義

北條時義

北條時義

北條時義

北條時義

北條時義

北條時義

北條時義

北條時義

北條時義

北條時義

北條時義











任出因月十八日... 元年二月... 六月... 四月... 元年三月... 任因十月... 九月... 任因四月...

高祖六年七月... 授高祖...

温恭茂様

一家祥云  
所改名...

文政... 甲申年四月... 御誕生... 御名... 御名... 御名... 御名... 御名... 御名...

同以

持言

持言

同以

持言

同以

三言信言

温美青...

夜夜...

山泉...

夜夜...

山泉...

夜夜...

山泉...

三言信言

山夜科三言信

山泉...

山泉...

山泉...

山泉...

山泉...

山泉...

山泉...

山泉...

山泉...

山泉...

山泉...

山泉...

山泉...

山泉...

山泉...

山泉...



三月三日 所召家祥云云  
 同日戊子年正月十日  
 四日  
 大德名樣云云  
 同日 所召家祥云云  
 二日 右召將樣云云  
 同日 十月十日  
 所召家祥云云  
 十月十日 所召家祥云云  
 同日 十月十日  
 所召家祥云云  
 十月十日 所召家祥云云  
 同日 十月十日  
 所召家祥云云  
 十月十日 所召家祥云云  
 同日 十月十日  
 所召家祥云云

一 德松様  
 所召家祥云云  
 同日 十月十日  
 所召家祥云云

二日 所召家祥云云  
 同日 十月十日  
 所召家祥云云  
 二日 所召家祥云云  
 同日 十月十日  
 所召家祥云云  
 二日 所召家祥云云  
 同日 十月十日  
 所召家祥云云  
 二日 所召家祥云云  
 同日 十月十日  
 所召家祥云云

二日 所召家祥云云  
 同日 十月十日  
 所召家祥云云  
 二日 所召家祥云云  
 同日 十月十日  
 所召家祥云云  
 二日 所召家祥云云  
 同日 十月十日  
 所召家祥云云  
 二日 所召家祥云云  
 同日 十月十日  
 所召家祥云云



稱名以 任若出改三年三月  
十月 管若出方由勝元因六年  
八月 公 慶所 在蘇 亦 慶也  
附錄二 序 又

一家後公

以化三年 官 官 四月 官 官 官  
所 所 所 所 所 所 所 所 所 所  
弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟  
格 格 格 格 格 格 格 格 格 格  
四 四 四 四 四 四 四 四 四 四  
長 長 長 長 長 長 長 長 長 長  
出 出 出 出 出 出 出 出 出 出  
任 任 任 任 任 任 任 任 任 任  
所 所 所 所 所 所 所 所 所 所  
所 所 所 所 所 所 所 所 所 所  
所 所 所 所 所 所 所 所 所 所  
上 上 上 上 上 上 上 上 上 上









依代奉 常憲院様

一 濱松院梅田  
一 寅杉様

文昭院様申事

有徳公申端書

一 長福様

惇信院様申事

滋羽院様同

一 孝恭院様

宝曆十二年十月廿四日 西遊生

申事公に於知保之方竹代若後

大納言安永八三年二月廿四日

申遊云

一 大納言様

一 若君様

持言

申辨三言集

申及全言集

依代奉 常憲院様

知氏

申及全言集

百言集

依代官

申及全言集  
申及全言集  
申及全言集

持言

依代官

申及全言集

同氏

依代官

同氏

同氏

依代官

申及全言集

二言集

大板書

申及全言集

同氏

依代官

申及全言集

同氏

依代官

申及全言集

同氏

依代官

申及全言集

持言

依代官

申及全言集

同氏

依代官

申及全言集

二言集

依代官

申及全言集

申及全言集



○ 文臣並有一字上り柳文字之類

炭有公所才  
文昭公所父  
一 淺揚院柳

甲府宰相細重公長松若由舟  
於夏之方延室六年九月五日  
由遊玄室永正七年八月十三日贈  
征夷人將軍大政大臣

一 長松柳  
淺揚院柳由事

神若所卷柳  
一 西光院柳  
或言秀冷院柳又淺地院柳

百之松儀言

由事尚現古殿

同以

二之儀言

由及科百儀

同以

同以

同以

同以

同以

同以

三之儀言

百儀持枝柳

由及枝持枝之持柳

淺地院柳

由事尚現古殿

同以

二之儀言

由及科百儀

同以

同以

同以

同以

同以

同以

三之儀言

百儀持枝柳

由及枝持枝之持柳

由事尚現古殿

由事尚現古殿

淺地院柳

由事尚現古殿

同以

二之儀言

由及科百儀

同以

同以

同以

同以

同以

同以

同以

同以

同以

同以



一 西... 統山極之号天正七年八月  
廿九日在... 生害

一 南月院極

天正四年四月... 遠列  
淡松城... 入... 極  
大園秀吉... 日... 天正  
正月廿四日... 逝

一 崇源院極

大園秀吉... 春... 逝  
女初... 逝

九條道房... 逝

台德公... 逝  
九月十三日... 逝

一 大猷公同

大猷公同... 逝  
所入... 逝  
逝

一 高岩院極

二品... 逝  
清宮... 逝

一 儀... 逝

一 儀... 逝

一 儀... 逝

一 儀... 逝

一 日

一 儀... 逝

一 儀... 逝

一 儀... 逝

一 儀... 逝

一 儀... 逝

一 儀... 逝

一 儀... 逝

一 儀... 逝

一 儀... 逝

一 儀... 逝



所入德定室二年六月廿四日逝云

常憲公因  
一 澤光院極

常憲公因白身浦公女延姫若定  
文四年九月廿一日葬回  
所入德定室二年  
二月九日逝去

文昭公因  
一 天英院極

一位極古公近園園白基照公  
女照姫若定室七年六月  
廿一日葬回 所入德定  
保元元年七月八日逝去

有德公因  
一 寬德院極

伏見殿姫若定宮室永三年  
三月十七日葬回 所入德  
同七年六月四日逝去

懷信公因  
一 沈明院極

伏見宮拜水秋王姫比宮室永  
六年十月三日逝去 所入德  
春性院

淡明公因  
一 心鏡院極

所入德直仁親王姫若定宮室永

百俵持持者

所入德持持之持者  
加合之持者

二百俵言

之持持之持者

日取

日取

所入德持持之持者

日取

日取

百俵言

所入德持持之持者

日取

日取

日取

堂而為

一子殿

千人院

所入德

系持出言

所入德

所入德

所入德

所入德

二百俵言

所入德持持之持者

持言

日取

所入德持持之持者

百俵言

所入德持持之持者

所入德持持之持者

所入德持持之持者

持言

二百俵言

所入德持持之持者

所入德

所入德

所入德

所入德

天文方

所入德

神通方

所入德















家祥公所為  
澄心院極

有若由方... 九月十日... 六月十日... 任出四年... 丙申年六月十日... 所入推...

同公兩海  
天障院極

順君極... 丙申年六月十日... 丙申年六月十日... 丙申年六月十日... 丙申年六月十日... 丙申年六月十日...

八拾儀持杖持

同以

持言持杖持

但二拾儀... 任出... 其書...

七拾儀持杖持

同以

同以

同以

同以

山中男以

山中人

山中...

山中...

山中...

山中...

山中...

山中...

同以

同以

同以

同以

同以

同以

同以

...

...

...

...

...

...

...

...

...



古亦活記以月十分而考凡  
百乃 而花柳之言稱之  
信也

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

○ 文版並三極文字之為

神母公御方  
神君所抄  
一 傳通院極

東照宮中神水柱在德川之文女慶也  
七 慶享八月廿九日也遊云

一 寶卷院極

照初平之夏更味西之右邊 蟹女  
天正十七年六月十日遊云於此  
之方於寶院極 秀惠公之御母

一 寶樹院極

大猷公御方  
一 寶樹院極

一拾儀抄持持  
四拾儀持持持  
一拾儀抄持持  
四拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
四拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
四拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
四拾儀抄持持

一拾儀抄持持  
四拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
四拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
四拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
四拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
四拾儀抄持持

持

一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持

一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持

一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持

一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持

一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持

一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持

一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持  
一拾儀抄持持







巨勢氏女享保正五年六月九日  
逝云

同公由松尾  
一 冰德院梅

紀伊嚴島本久保公由中女

長福君在正德三年十月間

逝云

一 至心院梅

渡明公所由松尾方梅溪

中納言通藤公娘比官至初延享

六年二月十六日逝云

文恭公所由  
一 慈德院梅

一 松尾内花松尾方松尾松正

女文化十四年六月八日逝云

凌雲院 享保七年七月十四日

停止

同公由松尾  
一 香琳院梅

家慶公所由松尾方松尾松正

押尾丹波守姊文化元年五月

向後市內松尾方 任出同七年

六月廿日逝云

外之松尾松正別居正

但松尾人云初初松正及

松正二松尾人松正五方松

初初松正及松正五方松

水澤松正

七拾儀之人松尾

山院

八拾儀之松尾

山院松正

九拾儀之松尾

山院松正

十拾儀之松尾

山院松正

十一拾儀之松尾

山院松正

十二拾儀之松尾

山院松正

十三拾儀之松尾

山院松正

十四拾儀之松尾

山院松正

十五拾儀之松尾

山院松正

三拾儀之松尾

松正松正松正松正

松正松正松正松正

松正松正松正松正

三拾儀之松尾

松正松正松正松正

松正松正松正松正

松正松正松正松正

松正松正松正松正

三拾儀之松尾

松正松正松正松正

松正松正松正松正

三拾儀之松尾

松正松正松正松正

松正松正松正松正



一 遺失院極

考卷院極 所封於知保... 出世但書形... 值布... 三三三三三月八日遊去

一 慎德院極

慎德院極 所封於知保... 值布... 三三三三三月八日遊去

○ 文版並秋文字之類

一 權現樣婚着

每婚着 所封於知保... 大膳... 二二二二二月七日遊去

一 良祥院極

良祥院極 所封於知保... 女池... 元文元在羊二月四日遊去

一 日 松清院極

持言

三拾儀之持言

日引

二拾儀之持言

日引

三拾儀之持言

二拾儀之持言

日引

四拾儀之持言

三拾儀之持言

二拾儀之持言

日引

三拾儀之持言

二拾儀之持言

山形... 伊勢...

山形... 伊勢...

山形... 伊勢...

山形... 伊勢...

山形... 伊勢...

山形... 伊勢...

山形... 伊勢...

山形... 伊勢...

山形... 伊勢...

山形... 伊勢...

山形... 伊勢...

山形... 伊勢...

山形... 伊勢...



一因 娘在母初山或希女下出方  
前生秀於娘死後淨地但子  
長盛娘之和元年八月廿九日  
逝云

一因 招婚若候  
山治号不知神母乃長希者女  
慶長十六年二月十九日逝云

一因 清雲院候  
市娘若母在出丹信也女慶長  
十六年二月十九日逝云

一因 台徳公娘若  
天徳院候

子之娘若所老梅加賀利常  
娘又言回娘云云寛文八年  
三月二日逝云

一因 天宗院候

膳娘若所母所老梅加賀利常相  
志近公娘又言回娘云云寛文  
十二年十月廿日於多回逝云

一因 奥安院候

初娘若所母所老梅加賀利常

二拾儀持持若

山治号不知神母乃長希者女  
慶長十六年二月十九日逝云

拾二儀三人持若

娘在母初山或希女下出方  
前生秀於娘死後淨地但子  
長盛娘之和元年八月廿九日  
逝云

二拾儀之持若

山治号不知神母乃長希者女  
慶長十六年二月十九日逝云

日郎

二拾儀之持若

山治号不知神母乃長希者女  
慶長十六年二月十九日逝云

持若

山治号不知神母乃長希者女  
慶長十六年二月十九日逝云

二拾儀之持若

山治号不知神母乃長希者女  
慶長十六年二月十九日逝云

二拾儀之持若

二拾儀持持若

山治号不知神母乃長希者女  
慶長十六年二月十九日逝云

但由用形也 山治号不知神母乃長希者女  
慶長十六年二月十九日逝云

持若持持若

山治号不知神母乃長希者女  
慶長十六年二月十九日逝云

二拾儀之持若

山治号不知神母乃長希者女  
慶長十六年二月十九日逝云

但由用形也 山治号不知神母乃長希者女  
慶長十六年二月十九日逝云

二拾儀之持若

持若持持若

山治号不知神母乃長希者女  
慶長十六年二月十九日逝云

二拾儀之持若

山治号不知神母乃長希者女  
慶長十六年二月十九日逝云



婦以寛文七年二月四日逝去

一 大猷公所著女  
清恭院秋

婦若定其水戸頼房之妻如史  
先言其明曆二年二月四日逝去

一 大猷公所著  
靈仙院秋

女代若 所著其後之方尾池  
先及室之福上其年十二月十日  
逝去

一 清揚公所著  
順性院秋

京都所人 所著其後之方尾池  
養師 大猷公所著其後之方  
天和三年七月廿九日逝去

一 常憲公所著  
陽春院秋

清德公所著其後之方尾池  
少老權之弟女後其後之方尾池  
出家秋其後之方尾池  
猶松德若若其後之方尾池  
二之九秋之文之三年六月廿日  
逝去

一 同公所著  
月信院秋

但物中其後之方尾池  
若其後之方尾池  
仍其後之方尾池

持言

同形

二拾儀之持言

但物中其後之方尾池

二拾儀之持言

及合之支

同形

及合之支

同形

同形

拾儀之持言

進物若若

少守少青

同形之支

但物中其後之方尾池

但物中其後之方尾池

但物中其後之方尾池

但物中其後之方尾池

但物中其後之方尾池

但物中其後之方尾池

但物中其後之方尾池

但物中其後之方尾池

西丸

同形

三拾儀之持言

及合之支

同形

及合之支

及合之支

二拾儀之持言

及合之支

同形

三拾儀之持言

及合之支

及合之支

及合之支

及合之支

但物中其後之方尾池

但物中其後之方尾池

但物中其後之方尾池

但物中其後之方尾池

但物中其後之方尾池

但物中其後之方尾池

但物中其後之方尾池

但物中其後之方尾池

但物中其後之方尾池

但物中其後之方尾池

但物中其後之方尾池

但物中其後之方尾池

但物中其後之方尾池

但物中其後之方尾池



猶娘若所母於信方先伊  
總教之室室水之申年四月吉  
逝云

同日所奏  
一 隨性院板

八室娘若實之室司有  
中將室而為生之室春仙院及延  
享二年三月十七日逝云

同日  
一 知法院板

長知娘若實之室法總祇女  
早世元祿二年七月八日逝云

同日  
一 光親院板

松娘若實之室女如安古治室  
享保元年九月廿日逝云

同日  
一 淨名院板

竹娘若實之室法嗣高照宮女松年  
大隅吉野城下安永之在年十二月  
廿日逝云享保十三年十月十日  
所入也

有德公娘若  
一 正雲院板

芳娘若所母是樹院廣宣也保云

二拾儀之人持持  
其布存及持持之持持

由子之代

同形

由子之代

持持之持持  
及持持之持持

由子之代

持持

由子之代

及持持之持持

由子之代

及持持之持持

由子之代

及持持之持持

由子之代

及持持之持持

由子之代

持持

由子之代

及持持之持持

由子之代

持持

由子之代

及持持之持持

由子之代

拾儀之人持持

由子之代

持持

由子之代

及持持之持持

由子之代

持持

由子之代

及持持之持持

由子之代

持持

由子之代

及持持之持持

由子之代

持持

由子之代

及持持之持持

由子之代

持持

由子之代

及持持之持持

由子之代

持持

由子之代

及持持之持持

由子之代

持持

由子之代

及持持之持持

由子之代



廿年七月廿日逝云

同公所養女  
雲松院棟

利根姫若實吉能伊字直公女松平  
御前守宗村十郎入延享二己年  
壬子月十二日逝云

渡月公姫若  
華光院棟

外代姫若室勝六子年七月廿日  
於西九郎誕生所母 所養御前七  
廿年四月十二日逝云上種慶雲院

一回  
系虎院棟

百子姫若室勝六子年八月廿日  
生所母 所養御前和子  
三月屋法中丸海但安永三年  
二月廿日 所母丸 子逝云

同公所養女  
貞恭院棟

種姫若田安中納言女明和二年  
七月誕生所母進信國自家之姫若  
後姫若安永三年去月 所養也  
任也天明二年二月七日能伊若  
由海從也 任也安永六年三月  
八日逝云

同日

同日

同日

同日

及後指之持指及合  
室之三友止

同日

二拾儀之持指

同日

知合三五少遊之持指  
三人連持指

拾之儀持持指

同日

二拾儀之持指

及切系持指持指  
世也三月三日

同由是若貴人

同由是若貴人

同由是若貴人

同由是若貴人

由是若貴人

二房同人

由是若貴人

西九

由是若貴人

由是若貴人

二拾儀之持指

三拾儀持持指

三拾儀之持指

外合三分

二拾儀持持指

二拾儀之持指

由拾之儀持持指

知合三五少遊之持指  
三人連持指

拾之儀持持指

拾之儀持持指

同日

同日

拾之儀持持指

拾之儀持持指

新用合三月二月廿日

野島方書及

大目下及

知合三五少遊之持指  
三人連持指

石之若貴人

由是若貴人

由是若貴人

由是若貴人

由是若貴人

由是若貴人

由是若貴人

由是若貴人

由是若貴人

由是若貴人

由是若貴人



文恭公内嫡女  
一 清遠院秋

淑姬若夏改之酉年二月廿五日誕生  
所出於弟一方年保保女同十  
年四月十日尾尾淑淑中御能同  
上未年上同十日市谷  
所出殿口所入學文化十四己年  
六月廿六日逝云

同公姬若 二女  
一 瓊卷院秋

夏改二酉年十月廿九日誕生  
於弟一方同年十月四日逝云

一 同  
麗五院秋 八女

綾姬若夏改之酉年七月廿五日誕生  
生所於弟一方同十年三月  
廿八日逝云

一 同  
樓真院秋 九女

德姬若夏改之酉年十月廿六日誕生  
生所於弟一方同九年二月十九日  
逝云

一 同  
冲依院秋 十一女

...

二拾儀之持持

拾之儀之人持持

二拾儀之持持

二拾儀持持持

中子苗金支

二拾儀之人持持持

及切系及持持持持

但右三月三日

拾之儀之人持持持

及金支支

同以

及金支支

同以

及金支支

同以

少子同人

持持持持

人合支支

及

少子同人

及

少子同人

及

少子同人

及

少子同人

及

少子同人

及

少子同人

及

拾之儀之人持持持

及金支支

同以

及金支支

同以

及金支支

同以

及金支支

同以

及金支支

同以

及金支支

同以

及金支支

同以

持持持持

及金支支

同以

及金支支

同以

及金支支

同以

及金支支

同以

及金支支

同以

及金支支

同以

及金支支

同以







中书於秋之方因之三年二月四日  
小逝云

同日  
蒼香院棟

本庄若宮和二年十月廿四日  
中书於皇朝之方文化之三年十月  
廿四日逝云信通院十

同日  
松葉院棟

海峽若宮和二年十月九日  
中书於皇朝之方文化之七年  
九月廿七日逝云信通院十  
小逝云 作此文故一升年十月

同日  
曼耀院棟

本庄若宮文化二年十月廿四日  
逝云  
廿四日逝云

同日  
圓珠院棟

本庄若宮文化二年十月廿四日  
逝云  
廿四日逝云

持之持持持

持之持持持

拾三儀之人持持持

拾三儀之人持持持

不献院棟

不献院棟

考卷院棟

考卷院棟

左憲院棟

左憲院棟

有德院棟

有德院棟

文昭院棟

文昭院棟

有德院棟

有德院棟

持之

持之

持之

持之

拾三儀之人持持持

拾三儀之人持持持

拾三儀之人持持持

拾三儀之人持持持

拾三儀之人持持持

拾三儀之人持持持

拾三儀之人持持持

拾三儀之人持持持

拾三儀之人持持持

拾三儀之人持持持

拾三儀之人持持持

拾三儀之人持持持

拾三儀之人持持持

拾三儀之人持持持

持之持持持

持之持持持



山遊云

同日 精純院換

客館若文化四年十月十日由聖  
海社之方初在客館若之後  
同正年十月客館若之身初  
小年七月 山遊云

同日 貞德院換

元館若文化六年七月十日由聖  
海社之方初在客館若之後  
同正年四月十日客館若之後  
山遊云 信文改四九年十月十日

同日 聖德院換

文館若文化六年七月十日由聖  
海社之方文改二年十月十日  
初年海社之方初在客館若之後  
貞德院之方初在客館若之後  
三月十日由遊云 信文改四九年十月十日

同日 法量院換

客館若文化八年二月十日由聖  
海社之方初在客館若之後  
同正年六月十日由遊云

同日

同日

同日

同日

同日

同日

同日

同日

同日

山遊云

山遊云

山遊云

山遊云

山遊云

山遊云

山遊云

山遊云

山遊云

山遊云

山給令五支之枝持

山給令八支四之枝持

山給令四支二之枝持

山給令五支三之枝持

山給令二支七之枝持

山給令三支五之枝持

山給令四支六之枝持

山給令五支七之枝持

山給令六支八之枝持

山給令七支九之枝持

山遊云

山遊云

山遊云

山遊云

山遊云

山遊云

山遊云

山遊云



明治四十年三月十日 西遊記

一 貞  
孝盛院様

三十二女

文化八年二月十日 西遊記

於此堂之方文政二年二月三日

肥前守院子松平貞丸 西遊記

作此文化四年三月十日 西遊記

芝草堂院子松平

一 貞  
貞徳院様

三十二女

和准若文化十周年二月十四日 西遊記

山母松長之方文政十二年三月廿七日

松平大格友之方山行後同十三日 西遊記

七月廿七日 西遊記

一 貞  
淳睦院様

三十二女

孝准若文化十周年二月廿九日 西遊記

山母松見世之方

指言

通書之及金之及

但此等及切而六條

拾三條之及

拾三條之及

八條之人格物

新金之及二分

山拾金之及五分之及

山拾金之及五分之及

山拾金之及五分之及

以上

山拾金之及

山拾金之及

山拾金之及

山拾金之及

山拾金之及

山拾金之及

諸白之及

和准若文化十周年二月十四日 西遊記  
山母松長之方文政十二年三月廿七日  
松平大格友之方山行後同十三日 西遊記

○ 海語

何之及海語別紙中書寫之及  
山拾金之及

月日

何之及

山拾金之及  
山拾金之及

何之及

山拾金之及



○京都後司代

何々滋慶市役所別紙申付字何色  
申上申上

同日

中上書系

申上書系  
申上書系  
申上書系

○大坂所代

何々滋慶市役所別紙申付字何色  
申上申上

同日

中上書系

申上書系  
申上書系  
申上書系

滋慶市役所別紙申付字何色  
申上申上

七月廿七日申遊去上世名院院

一 田 淳院院

孝昭君文化十周年正月廿七日申遊去  
生申申於神方同日申遊去  
廿一日申遊去

一 田 淳院院

文化十周年三月廿七日申遊去  
廿一日申遊去  
廿一日申遊去

○京都後司代

何々滋慶市役所別紙申付字何色  
申上申上

同日

中上書系

申上書系  
申上書系  
申上書系

○大坂所代

何々滋慶市役所別紙申付字何色  
申上申上

同日

中上書系

申上書系  
申上書系  
申上書系

滋慶市役所別紙申付字何色  
申上申上

帝徳之男

帝徳之男  
帝徳之男  
帝徳之男

帝徳之男

何々滋慶市役所別紙申付字何色  
申上申上

同日

申上書系



一目 三十九女 草城院板

仲雅若文化十二年十月十七日誕生  
生母於丙午年四月廿五日  
當日由遊云

一目 四十五女 末雅若板

文化十二年十月十日由生母於元  
世之方文改六年十月十日於年  
出產多苦痛子初生時音中而後退云  
仰歌

一目 四十二女 水雅若板

文化十二年十月八日  
六月廿日開并遊云於丙午年四月廿  
日路此云 仰歌

一目 四十四女 神水院板

若文改二年十月廿日

言家

○ 中妻若書

由西若死

何之遊及由西若別依由書字何通

為持由在十山以上  
何之遊何之遊及由在由依由遊  
十山以上

同日 中極 上書及

由西若死  
由書若死  
末文入

由三若方  
由城附

外由領由因遊中  
由由由由由由  
由由由由由由

所奉行

由西若死

由西若死

由西若死

由西若死

由西若死

由西若死

由西若死

由西若死

由西若死

由西若死

何之遊及由西若別依由書字何通



同日 三十九女 草城院候

仲雅若文化十二年十月十七日  
生母於庚戌年四月廿五日  
西日西遊云

同日 四十五 末雅若候

文化五年十月十日  
世之方文改六年十月十日  
出雅若若子松平勝春  
御歌

同日 四十二 末雅若候

文化五年十月十日

同日 四十三女 晴多院候

文化五年十月八日  
由生母於八月廿五日  
六月廿四日  
西日西遊云

同日 四十四女 御所院候

文化五年十月十日

言家 活衣

○ 由妻若若

由海若若

何之御所院候別後由身字何通  
為持由是十以上

何之御所院候何之御所院候何之御所院候  
十以上

同日 中振 上書改

由五若若 御所院候 未文入

由三若若 御所院候

由御所院候

御奉行

由御所院候

由御所院候

由御所院候

由御所院候

由御所院候

何之御所院候何之御所院候何之御所院候







家慶公作若三女  
一 海陽院棟

延保若文化十一年九月廿四日  
西元中延生由舟中乃文政元年  
六月廿四日遊去

一 日  
陽若院棟

延保若文化十二年二月廿七日  
於究由延生舟 所登舟梅園日  
亦由遊去

一 日  
最主院棟

文化十二年十月廿五日於西元  
上種金院

由延生舟 所登舟梅園日遊去  
上種金院

一 日  
海陽院棟

延保若文化七年四月廿四日於西元  
由延生同十二年二月廿四日遊去  
清雲院

一 日  
海陽院棟

延保若文化九年二月廿四日於西元  
由延生同年七月廿五日遊去 上種  
清雲院

乃由延生舟由舟中上

中極 上書及

○ 已如之書若年奉存不

○ 已如之書若年奉存不

一 月日例別

所據由延生舟由舟中上  
由中延生舟由舟中上

上書中書及

○ 由延生舟由舟中上

室曆九月廿五日有延保若院由延生  
上元月廿四日遊去 延保若院由延生  
六月廿四日遊去 延保若院由延生

書如例之延保若院由延生一統  
中台文如之者以延保若院  
中延生舟由舟中上 延保若院由延生  
六月廿四日遊去 延保若院由延生

初由延生舟由舟中上 延保若院由延生  
由延生舟由舟中上 延保若院由延生  
延保若院由延生 延保若院由延生  
延保若院由延生 延保若院由延生







日遊云十月十日...

一 同遊者

有柳川宮詔仁親王、非宮親實、  
中宮之孫天保三官年九月廿一日  
至勢而中河、河前水山麓、  
入同年十月廿日、所遊者、  
權准若柳之、台稱、  
三年年十月廿日、  
廣彰、  
巴爾年二月廿日、  
同年十月廿日、

一 同遊者

海光院殿  
結城秀能公知名、  
權美、  
家在、  
此地云

左坂市相例山...

三上國使書  
小若谷和泉  
多松八右衛門

場上云  
桂昌院、  
月光院、  
是私、  
比、  
出、  
忘、  
忘、  
忘、  
忘、  
忘、  
忘、

忘七日、 三日

但、  
台、  
清、  
但、  
合、  
書、  
右、  
申、

文化、  
上、

書、



















保和元年別中藝長寛永十五年  
三月六日遊生害

同日 祝祭  
去津神社

保和元年八月廿五日  
三月廿九日遊生害  
三月廿九日遊生害

同日 大猷公所  
一月溪院殿

保和元年世保四年八月四日  
遊生害通院

同日 齡甚院殿

保和元年世保四年七月  
四日遊生王德寺

同日 文昭公所  
智幻院殿

保和元年世保四年七月十日  
遊生世保寺遊生通院

同日 德光院殿

保和元年世保四年八月廿五日  
遊生世保寺遊生通院

同日 正和定時味夜

保和元年世保四年八月廿五日  
遊生世保寺遊生通院

保和元年世保四年八月廿五日  
遊生世保寺遊生通院

保和元年世保四年八月廿五日  
遊生世保寺遊生通院

同日 天保十二年正月

同日 大目付

保和元年世保四年八月廿五日  
遊生世保寺遊生通院

保和元年世保四年八月廿五日  
遊生世保寺遊生通院



遊去天德寺

有德公 三言  
一 凉地院殿

延三君宮保四年三月十四日遊  
生中本德院殿同年六月十二日遊去  
上野法皇院

澄因公 四言  
一 宗吾院殿

貞治中若宮智十二年山中遊生中  
於赤之宮同十三年二月十二日遊去  
上野法皇院以物言書後著

文恭公 六言  
一 瑞西院殿

寛政元年九月九日遊生中山中遊  
山中遊生中於物言方同月四日  
山中遊生中法皇院

一回  
一 瑞慶院殿

致之御若寛政七年十月七日遊  
生中山中遊生中於物言方同九  
己年三月十二日遊去仙海院

一回  
一 體門院殿 七言

致之御若寛政八年三月十九日

為用公若若中用分由傳慶中書方  
致之御若今遊之也勿遊之也  
致之御若今遊之也勿遊之也  
五月

天保十五年六月八日遊生中  
致之御若今遊之也勿遊之也  
致之御若今遊之也勿遊之也

致之御若今遊之也勿遊之也  
致之御若今遊之也勿遊之也  
致之御若今遊之也勿遊之也

致之御若今遊之也勿遊之也  
致之御若今遊之也勿遊之也  
致之御若今遊之也勿遊之也

致之御若今遊之也勿遊之也  
致之御若今遊之也勿遊之也  
致之御若今遊之也勿遊之也

致之御若今遊之也勿遊之也  
致之御若今遊之也勿遊之也  
致之御若今遊之也勿遊之也



















一日 甲子

由下即若文改二万年前月廿五日  
生由中即但所值伍前古律何  
一即右即但所值伍前古律何  
屋屋殿十内门後因九城年六月廿  
六日即若

一日 甲子

由下即若文改二万年前月廿五日  
生由中即但所值伍前古律何  
一即右即但所值伍前古律何  
屋屋殿十内门後因九城年六月廿  
六日即若

一日

由下即若文改二万年前月廿五日  
生由中即但所值伍前古律何  
一即右即但所值伍前古律何  
屋屋殿十内门後因九城年六月廿  
六日即若

何力古即若文改二万年前月廿五日  
生由中即但所值伍前古律何  
一即右即但所值伍前古律何  
屋屋殿十内门後因九城年六月廿  
六日即若

一月

甲子

甲子

甲子

由下即若文改二万年前月廿五日  
生由中即但所值伍前古律何  
一即右即但所值伍前古律何  
屋屋殿十内门後因九城年六月廿  
六日即若







...

一日 春之渡殿

...

一日 紀之渡殿

...

一周九殿

...

...

...

七月十日...

...

...

何...

...

...

...

...

...

...







一因 是性院殿

春、皇太后文政九年二月在皇太后  
生因十二年九月廿六日申遊去上野  
清雲院

一因 光祿院殿

恒、中若文政十二年九月十日  
申遊生因十二年二月廿四日遊去  
上野清雲院

一因 詮量院殿

皇太后文政十二年六月、申遊  
因十二年七月八日申遊去上野  
清雲院

一因 彩悅院殿

皇太后文保三年三月、申遊  
生因十二年上月二日遊去上野  
清雲院

一因 昭耀院殿

皇太后文保十四年 月 日申遊

少子申遊、皇太后文保十四年、色取申遊  
申遊、皇太后文保十四年、色取申遊  
申遊、皇太后文保十四年、色取申遊

三十日

同日

十一日

同日

七日

同日

四日

同日

二日

皇太后文保十四年

一日

皇太后文保十四年

三日

皇太后文保十四年、色取申遊  
皇太后文保十四年、色取申遊  
皇太后文保十四年、色取申遊

右、皇太后文保十四年、色取申遊

皇太后文保十四年

皇太后文保十四年、色取申遊

皇太后文保十四年、色取申遊

皇太后文保十四年、色取申遊

長卷

長卷ノ淵源ハ何ノ時代ニ始ルヲモ  
ラス或説ニ堀河夜撃ノ時ニカヲ捧  
先ニシハリテ用ユルヨリ始ルトモ云又  
一説ニ上杉景勝ノ旗本ニ長卷三百振  
ヲ備ヘシト云傳ルアリ是モタシカ  
ナラス寛政ノ度ニ藤堂家ニ長卷三



原日遊五坊之奇

同日 陽岳院殿

田鶴若君此化三年十月十日  
中延生國三年七月廿九日遊

同日 亦信院殿

高祖二年九月廿七日誕生所  
別中遊云々此後金屋下

書下之及文字之神

神皇正統記  
長島院殿

於方之方更節秀康公在座承  
見志摩守也元和七年十月六日  
遊云

同日 長安院殿

下山之方更節因信云々女秋山  
我前也女官山秋也女官山秋也  
細於在列漢和信古若也若也  
長十八年九月 遊云

百本傳ルヲ用ヒ方知ル者ナキヲ藩内  
ニ鎗ノ師タル何新太郎トカ云人鎗  
術ト長刀ノ法ヲ對擊ニテ用ヒ方ヲ  
創造セシ由ナリ丸床ルノ前ニ備  
テ敵ノ騎士ナソ乘込ヲ馬足上セニ  
難倒スニ便利アリ併洲源ノ造  
ナラサレハ長刀ヲ用ユルニシカス製  
作ハ長刀同様ナルヘシコレニヨレハ上  
叔ノ家ニ始ルト云ハ全藤堂ノ誤リ  
ナルヘシ  
寛政ノ度ニハ長卷ト突棒ノ三道具  
ノ用ト様再ヒ世ニ顯レシト申フ之左  
スレハ全ク長刀ヨリ出テ利便ハ長

刀ニ及ハサルヘシ

今ハ松平豆別ノ藩石川瀨平治長瀬  
卷ノ妙術ヲ願得意由ニ承リシ

山邊代場	与力	山邊守左四郎	同心
百人組四組之内	百人	根来甲斐同心	同心
与力見下番	同心	山邊守左	同心
山邊守左	同心	山邊守左	同心



同日 胡堂院夜

於阿茶之方遠列令為齋御佛之  
妻也於阿松為神元和七年  
六月十二日遊云

同日 相應院夜

於龜之方見法水八歳之秋法水  
如古古女仙代有在屋裏出仁在  
屋裏於十九年九月於可於尾引  
名古屋遊云

同日 養珠院夜

於美之方正亦九進之妻女於伏之  
頼室之方屋敷屋之屋裏於  
二十一年八月十日遊云

同日 英勝院夜

於八之方之田所之方女之屋敷之  
一昔如之方定亦十九年八月  
十日遊云

同日 台徳公山夜

於靜之方板橋之方竹村神皇氏  
女幸姫若之方定亦十二三年  
九月十七日遊云

白雲中極蹟、  
伊勢者  
進相取次少番  
同

中夜通  
同  
伊勢者  
伊勢者

中夜不番  
西丸者  
三夜中夜不番  
同

中夜兼方  
定亦同  
中夜兼方  
同

中中間  
同

中夜兼方者  
同

中夜兼方者  
西丸中夜兼方  
同  
定亦二十一年十二月定

二半場

西丸中夜兼方  
同

中夜不  
小間者  
同

中夜兼方  
同  
西丸 奧表  
坊主兼同

西丸  
同  
西丸  
同



大猷公中務局  
一 永光院後

於方之方六條之方有能公伊勢  
内宮社坊以丘位威遠俗物之局  
卜号有能舍方六條之方有能  
方之方之方中勢卜号

一 同  
一 自澄院後

於坊之方備生氏之方事是  
中多弟女代唯在方在方是  
存年八月廿八日遊之寶覽院後  
云

常憲公中務局  
一 壽老院後

山之九上之方備生氏之方事是  
於坊之方備生氏之方事是  
卜号遊之

一 同  
一 清心院後

山之九上之方備生氏之方事是  
於坊之方備生氏之方事是  
勢最於同之方備生氏之方事是  
遊之

文昭公中務局  
一 蓬津院後

山之九上之方備生氏之方事是  
元方 同心

山之九上之方備生氏之方事是  
内侍系書及

山之九上之方備生氏之方事是  
山之九上之方備生氏之方事是

山之九上之方備生氏之方事是  
山之九上之方備生氏之方事是

山之九上之方備生氏之方事是  
山之九上之方備生氏之方事是

山之九上之方備生氏之方事是  
山之九上之方備生氏之方事是

山之九上之方備生氏之方事是  
山之九上之方備生氏之方事是

山之九上之方備生氏之方事是  
山之九上之方備生氏之方事是

山之九上之方備生氏之方事是  
山之九上之方備生氏之方事是

山之九上之方備生氏之方事是  
山之九上之方備生氏之方事是

山之九上之方備生氏之方事是  
山之九上之方備生氏之方事是

山之九上之方備生氏之方事是  
山之九上之方備生氏之方事是

山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是
山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是
山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是
山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是
山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是
山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是

山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是
山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是
山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是
山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是
山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是
山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是	山之九上之方備生氏之方事是



大即一男於此之方二而於此云  
 因中初之家朝女大市危松若  
 在明和九年四月十八日逝云

同日  
 法心院度

右述之方由内世海由松若  
 家五代若之在三月是内用度  
 行和明和三年六月二日逝云

有德公家  
 一本酒院度

田中初之家家公母行松若  
 小市若之在享保八年二月  
 廿二日逝云

十三行

同日  
 除心院度

田中初之家尹公母行松若  
 享保六年七月七日逝云

同日  
 教樹院度

在名光之方紀州家福永改  
 女若若之在名光公院所以  
 後為院足樹院度由用度  
 在安永六年七月廿日逝云

同日  
 安祥院度

中具是也乃同  
 中書初也乃同

中初是也乃同  
 中我本也乃同

中若也乃同  
 中若也乃同

中若也乃同  
 中若也乃同

中若也乃同  
 中若也乃同

中若也乃同  
 中若也乃同

中若也乃同  
 中若也乃同

中若也乃同  
 中若也乃同

中若也乃同  
 中若也乃同

中若也乃同  
 中若也乃同

中若也乃同  
 中若也乃同











一  
諸星百郎娘與和之郎若元娘若  
左衛門文化七年三月廿日死云  
付通所

二  
一日  
於神方

若仁為娘與和安娘若文娘若  
若娘若左衛門

一日  
於八重方

若仁信助娘與和何之郎若左衛門

乙部信助娘與和若左衛門

一日  
於八重方

中津橋房之娘與和安娘若仲娘若  
左衛門

一日  
於八重方







四月廿七日丙戌...

附錄

○書中附文字

一 光祿院殿

張府志長公家...  
中台官海竹橋...  
光九殿

甲府  
一 隆宗院殿

法揚院殿...  
始若寬元九年六月十四日通云

一 紅玉院殿



一 宣宗 同公 亦 嘉 德 後 出 洛 中 初 名 淡 宗 之  
女 定 又 十 三 年 八 月 二 日 逝 云

一 宣宗 同公 亦 嘉 德 後 出 洛 中 初 名 淡 宗 之  
女 定 又 十 三 年 八 月 二 日 逝 云

○

○ 臣 安

一 有 德 公 亦 嘉 德  
一 悠 悠 院 殿

中 初 名 宗 亦 嘉 德 後 出 洛 中 初 名 淡 宗 之  
女 定 又 十 三 年 八 月 二 日 逝 云

一 言 尚 院 殿

宗 亦 嘉 德 後 出 洛 中 初 名 淡 宗 之  
女 定 又 十 三 年 八 月 二 日 逝 云

一 法 道 院 殿

宗 亦 嘉 德 後 出 洛 中 初 名 淡 宗 之  
女 定 又 十 三 年 八 月 二 日 逝 云



此報此後最難若若此之世有  
六年二月十二日逝云

文恭公即其子  
一 懷宗院殿 田也一德殿

慶元五年六月十二日逝  
家之居安政二年十月十二日  
檢中為文化之元年十月參政文政  
二年上月中旬公同十月五年  
六月大船公嘉永元年六月八日  
逝云

懷宗院戒德嚴明大居士

一 楊

有德公四男  
一 是乃院殿

形勢之家尹公小宗若此母湯澤後  
寬保之四年上同中有一楊也  
明和之甲午上同中有一逝云

一 冰達院殿

宗尹公家中之戶遊性院後若女  
更上一條岡白兼香公作若寬保二  
己年七月十二日逝云

一 桂芳院殿



一 治濟公案 中丞 官 張若少 官  
宣明和四 多 年 十二 月 宗 移 入  
慶 同 七 多 年 七 月 十二 日 遊 去

一 致 宗 院 殿

力 即 及 治 濟 公 案 中 丞 官 宗 移 年  
有 十 百 中 監 生 中 丹 左 山 氏 云 明 元 邑  
年 七 月 十 百 中 端 子 以 作 為 四 六 年  
六 月 十 百 中 名 氏 進 刑 刑 以 使 三 臣  
中 移 任

一 宗 遷 殿 殿

治 國 公 刑 刑 公 案 中 丞 宗 移 年 七 月 十 百 中 端 子 以 作 為 四 六 年

昭 若 一 以 中 方 宗 院 殿 官 年 十 月 十 百 中 端 子 以 作 為 四 六 年  
但 以 任 公 同 三 三 三 年 十 月 十 百 中 端 子 以 作 為 四 六 年  
丙 午 年 十 月 十 百 中 端 子 以 作 為 四 六 年  
十 月 十 百 中 端 子 以 作 為 四 六 年

一 岩 泰 院 殿

丙 午 年 十 月 十 百 中 端 子 以 作 為 四 六 年  
十 月 十 百 中 端 子 以 作 為 四 六 年

一 法 安 院 殿

德 川 氏 於 以 殿 案 中 備 昨 一 官 宗 和  
三 三 三 年 四 月 十 百 中 端 子 以 作 為 四 六 年



一 越前院殿

知名昌為殿法位西未年八月 日通

一 越前院殿

知名昌為殿法位西未年八月 日通

一 越前院殿

知名昌為殿法位西未年八月 日通

一 越前院殿

知名昌為殿法位西未年八月 日通

一 越前院殿

知名昌為殿法位西未年八月 日通

一 越前院殿

知名昌為殿法位西未年八月 日通

一 越前院殿

知名昌為殿法位西未年八月 日通

一 越前院殿

知名昌為殿法位西未年八月 日通

一 越前院殿

知名昌為殿法位西未年八月 日通

一 越前院殿

知名昌為殿法位西未年八月 日通

一 越前院殿

知名昌為殿法位西未年八月 日通

一 越前院殿

知名昌為殿法位西未年八月 日通

○ 清水

一 德信公御書

一 德信院殿

万石所居延享二五年二月十者於

西尾山誕生宣曆九年九月廿七日

送信中為德川宮内少輔好卜号

同年信水出河明地多信勿本推

万石以 進定改四子年二月十日

在任中羽公同七年七月八日逝云

一 貞空院殿

官内少輔兼中伏足自建親王之地

若田將官宣曆二年壬午卯公

卯卯九下所入同年十二月信水初秋



所入書法水紙遊云後落院

一 定量院殿

一 恭真院殿

或如公原書中依之一不其為知矣  
致如王維若 宮文後四  
得四年九月廿五日屋蓋勢如力向  
而如中書殿十所入何月廿六日  
法水加紙十日自秋法水紙遊云  
後落院書及思年四月廿五日遊云

法雲院中書





